

# 履修の手引き

令和8年度（2026年度）入学生用

## 人文社会科学部

この手引きには、学習の計画を立てるため、そして卒業するために必要な情報がたくさん書かれています。

### 【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- III 専門教育について【人文社会科学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等

※この手引きを読んで、わからないことがあったら  
学生センターA棟1F窓口にご相談に来てください。  
※この手引きは卒業まで大切に保管してください。



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和8年度（2026年度）行事日程

前期	4月	2日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		6日（月）		学部新入生学生証等配付
		7日（火）		入学式 編入学生オリエンテーション
		8日（水）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（水）～10日（金）	前期履修申告	
		9日（木）～10日（金）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生）
		中旬		[奨学金]在籍報告 （前年度からJASSO給付奨学金を継続する方）
		14日（火）	授業開始【前期・クォーター（ ）】	
		14日（火）～20日（月）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生以外）
		14日（火）～20日（月）	履修申告訂正	
		30日（木）	水曜授業日	
		5月	8日（金）	月曜授業日
8日（金）～14日（木）	履修申告取消期間			
16日（土）			盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
20日（水）			前期授業料口座引落日	
6月	1日（月）		開学記念日	
	8日（月）	クォーター（ ）補講日		
	9日（火）	授業開始【クォーター（ ）】		
7月	19日（金）～25日（木）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	21日（火）	月曜授業日		
	29日（水）～8月4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
8月	中旬		[奨学金]前期授業料免除結果通知	
	7月29日（水）～4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
	5日（水）～9月30日（水）	夏季休業		
	6日（木）		オープンキャンパス	
9月	8日（土）～17日（月）		全学一斉休業（閉庁）	
	8月5日（水）～30日（水）	夏季休業		
	18日（金）	前期成績発表		
	25日（金）		9月卒業式	
後期	10月	29日（火）～10月1日（木）	後期履修申告	
		9月29日（火）～1日（木）	後期履修申告	
		1日（木）		10月入学式
		5日（月）	授業開始【後期・クォーター（ ）】	
		5日（月）～9日（金）	履修申告訂正	
		16日（金）	全学休講	
	11月	17日（土）～18日（日）		大学祭
		20日（火）～26日（月）	履修申告取消期間	
		18日（水）	金曜授業日	
	12月	19日（木）	全学休講	
		20日（金）	全学休講	[入試]学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日
		1日（火）	クォーター（ ）補講日	
		2日（水）	授業開始【クォーター（ ）】	
		中旬		[奨学金]後期授業料免除結果通知
		中下旬		[奨学金]継続願 （次年度もJASSO賞与奨学金を継続する方）
	1月	14日（月）～18日（金）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間	
		23日（水）～1月4日（月）	冬季休業	
		28日（月）～1月3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
		12月23日（水）～4日（月）	冬季休業	
		12月28日（月）～3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）
	2月	12日（火）	月曜授業日	
		13日（水）	金曜授業日	
		14日（木）～15日（金）	全学休講	
		16日（土）～17日（日）		大学入学共通テスト
3月	5日（金）～12日（金）	後期・クォーター（ ）補講日		
	12日（金）	木曜授業日（補講日）		
	19日（金）～24日（水）		入試準備日	
3月	25日（木）～26日（金）		[入試]一般選抜（前期）	
	9日（火）～11日（木）		入試準備日	
	12日（金）		[入試]一般選抜（後期）	
	19日（金）	後期成績発表		
3月	23日（火）		卒業式	
	24日（水）～31日（水）	春季休業		

上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和9年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

# 目 次

令和8年度（2026年度）行事日程

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標	- 1
2 学期区分	- 1
3 本学の履修科目及び履修時期	- 2
4 授業科目の単位	- 3
5 成績評価	- 4
6 授業時間	- 4
7 時間割表の見方	- 4
8 総合学修支援システム	- 5
9 履修の申告	- 5
10 履修科目登録単位の上限	- 6
11 他学部開講科目の履修	- 6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	- 7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	- 8
14 資格試験等による単位認定	- 9
15 ボランティア活動による単位認定	- 10
16 試験	- 10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	- 11
18 成績優秀者	- 11
19 卒業時に授与される学位	- 12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	- 12
21 長期履修学生制度	- 12
22 転学部制度	- 12
23 転学科・転課程制度	- 13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	- 13
25 その他	- 13
参考 学生の修得すべき単位数	- 14
学籍番号	- 14
用語集	- 15
I <sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I <sup>n</sup> Folio	- 16

## 教養教育について（獣医学部を除く）

1 教養教育の理念	- 1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	- 1
3 履修方法及び開設授業科目	- 6
4 選択について	- 10
参考 開設授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表	- 11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
人文社会科学部	- 13

履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

## 専門教育について【人文社会科学部】

---

1 人文社会科学部の理念・目的	- 1
2 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 2
3 人文社会科学部教育課程規則	- 1 6
4 人文社会科学部教育課程履修細則	- 1 7
5 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について	- 1 9
6 人間文化課程 科目等一覧	- 2 7
7 地域政策課程 科目等一覧	- 3 6
8 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧	- 4 6
9 取得可能な資格等について	- 4 8

## 教育職員免許状・各種資格の取得方法

---

1 教育職員免許状の取得に当たって	- 1
人文社会科学部	- 2
2 その他各種資格の取得に当たって	- 2 2

## 国際教育科目について

---

1 国際教育科目の理念と教育目標	- 1
2 履修方法および開設授業科目	- 3

## その他プログラムについて

---

1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	X- 1
2 IHATOVグローバルコースについて	X- 2
3 イーハトヴ協創コースについて	X- 4

## 関係法規等

---

1 岩手大学諸規則
2 関係法令

# 科目履修に当たって 知っておくべきこと

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

### 1 大学の目的・教育目標

本学は、国立大学法人岩手大学学則において、次のことを「大学の目的」として掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の目的・教育目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部に入学し、卒業するまでの4年間(獣医学部は6年間)に教養教育科目(獣医学部は共通教育科目)及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が28単位、共通教育科目が30単位、専門教育科目が98～159単位です。

また、教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、さらに教職教育科目を履修する必要があります。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部についてはクラス担任教員や教務担当教員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

### 2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日となっています。(学則第32条)

### 3 本学の履修科目及び履修時期

---

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（技法知科目、学問知科目、探究知科目、実践知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており、2年次、3年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので、低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「[教養教育について](#)」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「[獣医学部について](#)」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており、1年次には少なく、2年次、3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部（獣医学部を除く）で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「[教育職員免許状・各種資格の取得方法](#)」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は、外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが、日本人学生も履修することができます。詳細は「[国際教育科目について](#)」を参照してください。

## 4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

端的には、高等学校では授業時間 = 単位でしたが、大学では授業 + 授業時間外の学習 = 単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (獣医学部)	外国語 健康・スポーツ 実習、演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験、実習、実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義	100	7	1	30
	(グループワークなどが行 われることもあります)	100	14	2	60
専門教育科目 (獣医学部)	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義	45	15	1	30
		(グループワークなどが 行われることもあります)	90	15	2

### 解説

例えば、教養教育科目の「外国語」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

### 授業外学修時間の算出

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、獣医学部は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

## 5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の到達目標、具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

## 6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

### 【獣医学部専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15)*	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（ ）\*の時間は遠隔講義の時のみ

## 7 時間割表の見方

### （1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう設計されています。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （2）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口または 番窓口にお問い合わせください。

## 8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。  
(詳細は「[I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」( - 16 ページ)を参照)

## 9 履修の申告

学期の初めには、必ず履修申告期間内に履修申告(授業科目の登録)をしなければなりません。申告をしないと授業を受けることができず、単位の修得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬(学年暦参照)に履修申告をした科目を取り消すことができます(ただし、集中講義科目は原則開講日の2週間前まで)。詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが、あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません。

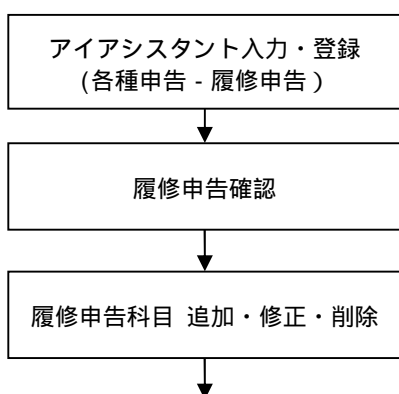
### (1) 履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス(講義要目)」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科(課程)・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード(アルファベットと数字の6桁)を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが違います。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位(編入学生及び成績優秀者は28単位)までです。詳細は、「[10 履修科目登録単位の上限\(CAP制\)](#)」を参照してください。

### (2) 履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告(集中講義の申告はできません。)

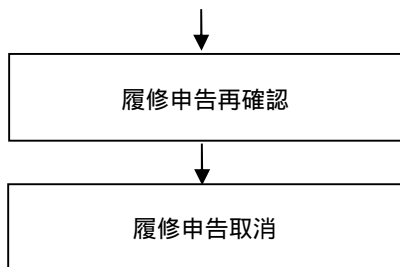


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力してください。**

履修申告結果は、指定された日にアイアシスタントのMy時間割に表示されます。

各自で「**時限(校時)・科目名・時間割コード**」などが正確に登録されているかを必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。

履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

## 10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、1学期につき24単位までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。  
ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・教育学部学生の履修登録単位数の上限は、1学期につき28単位までになる場合がある。（-21ページを参照）
- ・成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、1学期につき28単位を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目、教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

## 11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

## 1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

区分		いわて高等教育コンソーシアム
協定校		岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手保健医療大学、一関工業高等専門学校
身分		特別聴講学生
授業料等		入学料、授業料、検定料は無料 ただし、追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。
開講科目		開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。
出願期間		前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬
卒業単位上限	教養教育科目	教養教育科目の選択の単位として認定します。 (獣医学部の共通教育科目は該当しません。) 人文社会科学部： 4単位まで 教育学部： 2単位まで 理工学部： 4単位まで 農学部： 4単位まで
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。 詳細は、～の各学部専門教育のページを参照してください。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

### 1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 1 4 資格試験による単位認定

本学では、資格試験で資格を取得又は一定以上の点数を得点した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センター A 棟 番窓口で年 2 回（1 月、7 月）受け付けます。  
詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S - C B T	準 1 級		4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準 1 級	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
	1 級		8	8	
T O E F L (マークシート式677点満点)	500～539点		2	2	
	540点以上	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
T O E F L i B T (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
T O E I C	600～699点	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4 級	初級ドイツ語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ドイツ語(入門・発展)	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5 級	初級フランス語(入門・発展)	2	2	
	4 級	初級フランス語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級フランス語(入門・発展)	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4 級	初級ロシア語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ロシア語(入門・発展)	4	6	
		中級ロシア語	2		
H S K (漢語水平考試) H S K I B T (H S K ネット試験)	2 級	初級中国語(入門・発展)	4	4	各外国語の資格試験において、上級の資格で認定する。
	3 級以上	初級中国語(入門・発展)	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIK (1級～2級140点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
		初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	TOPIK (3級～6級120点以上)	中級韓国語	2		
「ハングル」能力検定試験	5 級	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	IBT 5 級				
	4 級以上	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
中級韓国語		2			

### 備考

- 1 認定した単位の評価は、「合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 英語科目又はその他の外国語の資格試験において、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。なお、同一言語で複数の資格試験がある場合は、認定単位数の上限が高いほうを上級とみなす。
- 4 「再履修学生」とは、一度でも初級(入門)あるいは初級(発展)を履修した学生をいう。
- 5 T O E F L と T O E I C に関しては、T O E F L - I T P と T O E I C - I P も資格試験の対象とする。

資格試験による単位認定は、履修申告し受講している(した)授業の代わりになるものではありません。よって資格試験による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

## 1.5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で、一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます(各年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

## 1.6 試験

### 試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

### 1. 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。なお、試験当日の授業回は試験のみではなく、試験と併せて授業(振り返り等)が行われます。

#### (1) 試験についての注意事項

受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。

万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟 番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。

原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。

試験開始後20分間、退室は認められない。

答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。

試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。なお、不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。

試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。

試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。

申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

## (2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟 番窓口に願い出ることができます。

負傷又は疾病 (必要添付書類...医師の診断書等)

天災その他突発事故 (必要書類...その事由を証明する物)

忌引き (必要書類...死亡診断書の写し等)

列車等の遅延 (必要書類...遅延証明書)

その他特別に事情があると認められる場合(必要書類...その事由を証明する物)

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

## 2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

## 1.7 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

---

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

## 1.8 成績優秀者

---

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を単位数の点で10分の9以上得て、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「2013年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

## 1 9 卒業時に授与される学位

本学に4年以上(獣医学部は6年以上)在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士(総合科学)	
教育学部卒業生		学士(教育)	
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士(理工学)
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士(情報学)
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士(工学)
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科	学士(農学)	
獣医学部卒業生	共同獣医学科	学士(獣医学)	

## 2 0 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)

2年次後期までの全学期に成績優秀者(「1 8 成績優秀者」を参照)として認定された者で、4年未満の在学中で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究(最終試験を含む。)の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。(関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照)

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

### 2 1 長期履修学生制度 獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間(最長6年まで)にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟 番窓口に申し出てください。

(申請時期: 2月末日又は8月末日まで 対象: 1~3年次まで)

### 2 2 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 3 転学科・転課程制度

---

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

---

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

(注意事項)

本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

## 2 5 その他

---

### (1) 大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡(例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など)は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

### (2) 気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報(暴風警報及び暴風雪警報に限ります。)又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

< 参考 >

\* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育)、各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		28		98	126
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	28		109~ 118	137~ 146
		中学校教育コース			106~ 115	134~ 143
		理数教育コース			109~ 111	137~ 139
		特別支援教育コース			107	135
理工学部	理工学科		28		99	127
農学部	食料農学科		28		98	126
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			30	159	189

\* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

* 学部学科等 (3桁)	* 入学年度 (2桁)	* 通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 SB1 理工学科 農学部 AB1 食料農学科農学コース AB2 食料農学科食品健康科学コース AB3 生命科学科分子生物機能学コース AB4 生命科学科分子生命医科学コース AB5 地域環境科学科革新農業コース AB6 地域環境科学科森林科学コース AB7 動物科学・水産科学科動物科学コース AB8 動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 VB1 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2026年入学 = 26  編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生 = 24	個人を特定する番号で3桁となります。  例： 1番 = 001 10番 = 010

(例)

「2026年度入学 食料農学科農学コース99番」の学生の場合は、「AB126099」であり、分解すると、「AB1 = 学部学科等・26 = 入学年度・099 = 通番」となります。

## 科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

### アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

### インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間が長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

### CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくは -6 ページを参照)

### いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を修得したり、図書館を利用することができます。

### 集中講義

通常の授業とは別に、特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度アイアシスタント等でお知らせします。

### シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見るすることができます。

### GPA(ジー・ピー・エー: Grade Point Average)

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では、各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント(秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0)を掛けた数字の合計を、履修した単位数で割って算出した値をGPAとしています。

#### 【本学のGPA算出方法】

$$GPA = \frac{\text{「秀」単位数} \times 4 + \text{「優」単位数} \times 3 + \text{「良」単位数} \times 2 + \text{「可」単位数} \times 1 + \text{「不可」単位数} \times 0}{\text{「秀」単位数} + \text{「優」単位数} + \text{「良」単位数} + \text{「可」単位数} + \text{「不可」単位数}} \quad (1)$$

(1)は履修単位数×成績評価によるポイントの合計、(2)は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし、成績評価がないもの(「合」など)、「保留」となっているものは含まれません。

なお、不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合、再履修による結果でGPAを算出します(再履修による単位修得後は、不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます)。

### JABEE(ジャビー: Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

### ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生の書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオを使用しています。

### 履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

# I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

## 1. I<sup>n</sup> Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

I<sup>n</sup> Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass や I<sup>n</sup> Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日(逐次)利用するようにしてください。

### <システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

[iphone 等版 \(App Store\)](#)



[Android 版 \(Google Play\)](#)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

### <ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」、「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ(初回のみ)してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配付されます。

これは、大学の端末室(パソコン教室)のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

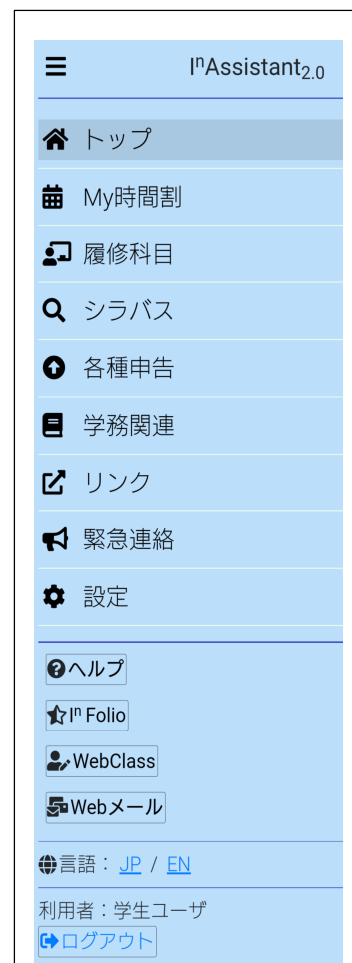
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

### <トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係(休講、補講、教室変更、その他)、学務部からの各種お知らせ、呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活、学生支援(授業料免除や奨学金等含む)、地域協創教育、キャリア支援、留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



### < My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割、開講される講義室等が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

### < 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

### < シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

### < 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格(等)の種類を登録することができます。

### < 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

### < リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

### < 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

### < 設定 >

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

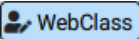
## 2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass (以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配付やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

### < 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして、利用します。

なお、My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または  をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	<a href="#">初級フランス語(入門)</a>	
2		<a href="#">経済のしくみ</a>

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

#### < 教材 >

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

#### < マイレポート >

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

#### < 成績 >

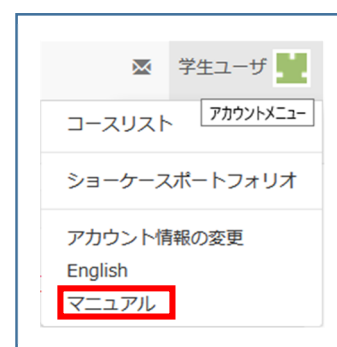
成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

#### < 出席 >

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

#### < マニュアル >

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



### 3 . 1<sup>st</sup> Folio (アイフォリオ)

1<sup>st</sup> Folio (以下「アイフォリオ」という。)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー、以下「DP」という。)の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力(学士課程共通のDP)、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

#### < 利用 >

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

#### < 学生情報 >

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

#### < ポリシー >

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

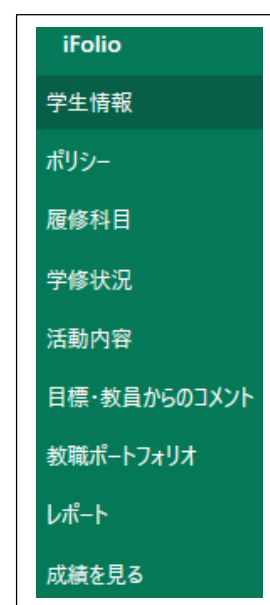
DPグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DPに対する重みづけから算出された達成量です。

#### < 履修科目 >

履修した科目について、学修状況を評価入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。



#### < レポート >

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

#### < 学修状況 >

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

#### < 活動内容 >

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

#### < 目標・教員からのコメント >

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

#### < 教職ポートフォリオ >

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

#### < 成績を見る >

自身の修得単位、成績の状況を確認することができます。

また、修得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照のうえ、各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、前述の各種自己評価を入力する必要があります。

#### < マイレージ >

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」、地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

## 大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールにお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

# 教養教育について

( 獣医学部を除く )

# 教養教育について (獣医学部を除く)

## 1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

## 2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

### 教養教育の教育目的及び修得すべき能力

#### <教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

#### <修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

### 教養教育科目の構成(科目区分等)

教養教育科目は、前述の教育目的を達成するために、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

区分			
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語
			英語以外
			日本語
		健康・スポーツ科目	
		情報科目	
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	
		理学・工学領域科目	
		農学領域科目	
	探求知科目	環境科目	
	実践知科目	地域関連科目	地域科目
地域課題演習科目			

### 各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

#### A 技法知科目

## <教育目的>

「技法科目」は、外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

## <修得すべき能力>

「技法科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

## 1. 外国語科目

### ・英語

#### <教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

### ・英語以外の外国語

#### <教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
  - ・ドイツ語技能検定試験 4級
  - ・実用フランス語技能検定試験 4級
  - ・ロシア語能力検定試験 4級
  - ・中国語検定試験 4級
  - ・漢語水平考試（HSK） 3級
  - ・韓国語能力試験 TOPIK（1～2級 140点以上）
  - ・ハングル能力検定試験 5級

(2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・中国語検定試験 3級
- ・漢語水平考試 (HSK) 4級
- ・韓国語能力試験 TOPIK (3~6級 120点以上)
- ・ハングル能力検定試験 4級

- (2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力
- (3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力
- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

## ・日本語

### <教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

### <修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力
- (2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

## 2. 健康・スポーツ科目

### <教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを实践する力を養うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
- (2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
- (3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを实践する能力

## 3. 情報科目

### <教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

### <修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力
- (2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
- (3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力
- (4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

## B 学問科目

### <教育目的>

「学問科目」は、学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、多様な学問領域への関心を高め、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

### <修得すべき能力>

「学問科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 知識の修得を通じて、物事を多面的な角度から考察できる能力
- (2) 知識の修得を通じて、多様な価値観を受け入れることができる能力

(3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

### 1. 人文社会科学・教育学領域科目

#### <教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は、人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から、多様な文化の形成や意義、社会の成り立ち、教育や心理に関する諸問題を理解し、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会、教育、心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会、教育、心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 2. 理学・工学領域科目

#### <教育目的>

「理学・工学領域科目」は、理学及び工学における各学問分野の視点から、自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 3. 農学領域科目

#### <教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

## C 探究知科目

### <教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

### 1. 環境科目

#### <教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどにに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

### 2. 地域関連科目

#### <教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

**・地域科目**

**<教育目的>**

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

**D 実践知科目**

**<教育目的>**

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

**・地域課題演習科目**

**<教育目的>**

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

**<修得すべき能力>**

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

### 3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

**同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。**

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ、または後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

#### A 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 a - 1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合 (中級)	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合 (中級)	1	1	初級中国語(入門)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	初級中国語(発展)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(入門)	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(発展)	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語(入門)	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語(発展)	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

- 履修年次 -

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること(掲示により確認すること)。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。

3. 英語総合 ・ は「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーション ・ は「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。

4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。

5. 英語以外の外国語は、初級(入門)、初級(発展)の順に履修すること。

ただし、集中型(入門と発展を併せて週4回行う。)の授業の場合は、同時に履修すること。

6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。

7. 外国人留学生は、母語(native language)、およびCEFR C1 レベル以上の既習得言語を、「外国語科目」として履修できない。

8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。

9. 「英語」については、上記のほか表 a - 2のとおり開設授業科目がある。

表 a - 2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (科学英語)	1	1	2年次以上対象

- 履修年次 -

「英語発展」は2年次以上に履修すること。

なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。  
 2. 英語発展A～Dに履修の順番はない。ただし、英語発展B (TOEIC 中級)の単位を修得した場合、英語発展A (TOEIC 初級)を履修することはできない。  
 3. 英語発展A (TOEIC 初級)は、TOEICスコア500点を到達目標とした授業である。  
 英語発展B (TOEIC 中級)は、TOEICスコア600点を到達目標とした授業である。  
 英語発展C (実践英語)は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。  
 英語発展D (科学英語)は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 b

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

- 履修年次 -

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位)は必ず履修すること。  
 2. 健康・スポーツC (シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ履修できる。  
 3. 健康・スポーツBと健康・スポーツC (シーズン)は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 c (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎A	2	1	機器の操作含む
情報基礎B	2	1	機器の操作含む

- 履修年次 -

全学部とも情報基礎Aは1年次前期に、情報基礎Bは1年次後期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること(時間割及び掲示により確認すること)。

- (注) 1. 全学部とも情報基礎A (2単位)は必ず修得すること。情報基礎B (2単位)は1年次後期に履修することができる。  
 2. 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B 学問知科目

(1) 「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 d

授 業 科 目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

(2) 「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 e

授 業 科 目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

(3) 「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 f

授 業 科 目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C 探究知科目

(1) 「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 g

授 業 科 目	単位数	週時間数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

(2) 「地域科目(地域関連科目)」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 h

授 業 科 目	単位数	週時間数	授 業 科 目	単位数	週時間数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業・企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創I	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D 実践知科目

(1) 「地域課題演習科目(地域関連科目)」の開講授業科目及び履修方法等  
表 i

授 業 科 目	単位数	週時間数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修-世界から地域を考える-	2	集中

(注) 地域課題演習科目(2単位)は、人数制限があるので注意すること。

#### 4 「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、情報科目、人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については、所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお、「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考: 履修授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考			
技法知 科目	英語	英語総合 (初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)			
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語総合 (初級)	1	選択	1				
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語発展A (TOEIC 初級)	1	選択	2 前				
		英語発展B (TOEIC 中級)	1	選択	2 後				
		英語発展C (実践英語)	1	選択	2 前				
		英語発展D (科学英語)	1	選択	2 後				
		外国語 科目	英語以外	初級ドイツ語(入門)	1		選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
				初級ドイツ語(発展)	1		選択	1	
				中級ドイツ語	1		選択	1 後	
	初級フランス語(入門)			1	選択	1			
	初級フランス語(発展)			1	選択	1			
	中級フランス語			1	選択	1 後			
	初級ロシア語(入門)			1	選択	1			
	初級ロシア語(発展)			1	選択	1			
	中級ロシア語			1	選択	1 後			
	初級中国語(入門)		1	選択	1				
	初級中国語(発展)		1	選択	1				
	中級中国語		1	選択	1 後				
	初級韓国語(入門)		1	選択	1				
	初級韓国語(発展)		1	選択	1				
	中級韓国語		1	選択	1 後				
	上級日本語A		1	選択	1 前				
	上級日本語B		1	選択	1 前				
	上級日本語C		1	選択	1 前				
	上級日本語D		1	選択	1 前				
	上級日本語E	1	選択	1 後					
	上級日本語F	1	選択	1 後					
	上級日本語G	1	選択	1 後					
	上級日本語H	1	選択	1 後					
	健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前				
		健康・スポーツB	1	必修 / 選択	1 後				
		健康・スポーツC (シーズン)	1	選択	1 後				
情報科目	情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)				
	情報基礎B	2	選択	1 後					
学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目	思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。			
		芸術学	2	選択	1・2				
		文学	2	選択	1・2				
		言語学	2	選択	1・2				
		歴史学	2	選択	1・2				
		法学	2	選択	1・2				
		憲法	2	必修 / 選択	1・2				
		政治学	2	選択	1・2				
		経済学・経営学	2	選択	1・2				
		社会学	2	選択	1・2				
		教育学	2	選択	1・2				
心理学	2	選択	1・2						

履修区分	科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考	
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2	
		自然科学	2	選択	1・2	
		材料科学	2	選択	1・2	
		電気電子工学	2	選択	1・2	
		エネルギー科学	2	選択	1・2	
		数理情報科学	2	選択	1・2	
		機械科学	2	選択	1・2	
		環境・防災学	2	選択	1・2	
		メディア情報学	2	選択	1・2	
	農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
		食品健康科学	2	選択	1・2	
		分子生物機能科学	2	選択	1・2	
		分子生命医科学	2	選択	1・2	
		農業環境工学	2	選択	1・2	
		森林科学	2	選択	1・2	
		動物科学	2	選択	1・2	
		水産学基礎	2	選択	1・2	
		獣医学A	2	選択	1・2	
		獣医学B	2	選択	1・2	
獣医学C	2	選択	1・2			
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2前	
		環境B	2	選択	1・2前	
		環境C	2	選択	1・2前	
		環境D	2	選択	1・2後	
		環境E	2	選択	1・2後	
		環境F	2	選択	1・2後	
	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
		巨沢賢治の世界	2	選択	1・2	
		危機管理と復興	2	選択	1・2	
		地域産業・企業論	2	選択	1・2	
		ボランティアとリーダーシップ	2	選択	1・2	
		地域協創入門	2	選択	1・2	
		社会連携学A	2	選択	1・2	
		社会連携学B	2	選択	1・2	
		地域協創A	1	選択	1・2	
		地域協創B	1	選択	1・2	
		地域協創C	1	選択	1・2	
		地域協創D	1	選択	1・2	
		地域協創E	1	選択	1・2	
		地域協創F	1	選択	1・2	
		地域協創G	1	選択	1・2	
	地域関連 科目	地域協創H	1	選択	1・2	
		地域協創I	1	選択	1・2	
		キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
		キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
		日本事情A	2	選択	1・2	
		日本事情B	2	選択	1・2	
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2	
		地域グローバル課題演習	2	選択	2	
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2	
		地域課題演習A	2	選択	2	
		地域課題演習B	2	選択	2	
		地域課題演習C	2	選択	2	
		地域課題演習D	2	選択	2	
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2	
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2	
		海外研修-世界から地域を考える-	2	選択	2	

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみまたは後期のみの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の 印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～人文社会科学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 a 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				人文社会科学部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(2)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
		実践知科目	地域関連科目				地域科目
				地域課題演習科目			
探究知・実践知科目取得単位数合計				4			
教養教育科目修得単位数計					28		

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～c のいずれか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

c. 英語以外の外国語 8 単位

1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、中級を 4 単位、計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（2単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。

2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。

3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。

なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。

また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。

なお、人文社会科学部の学生は、前期末に行う外国語科目の変更希望調査により、後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし、決定語学の変更は、1年次だけに認められ、2年次以降の変更はできないので、変更の手続きについては掲示を確認すること。

専門教育について

人文社会科学部

人文社会科学部学生の皆さんへ

皆さんの科目履修については、この「履修の手引き」に全て記載してありますので、関係する部分をよく読んでください。

本手引きの記載内容に変更等ある場合は、その都度、アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

#### 【教養教育科目の履修】

13～ 14 に書いてある単位を修得してください。

#### 【専門教育科目の履修】

下記の順に掲載しています。

- 1．人文社会科学部の理念・目的
- 2．卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針
- 3．人文社会科学部教育課程規則
- 4．人文社会科学部教育課程履修細則
- 5．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について
- 6．人間文化課程 科目等一覧
- 7．地域政策課程 科目等一覧
- 8．課程横断型プログラムおよび課外科目一覧
- 9．取得可能な資格等について

#### 【教育職員免許状等の取得について】

中学校教諭（一種）、高等学校教諭（一種）の免許等の取得が可能です。

履修すべき単位数や免許等取得の条件等については、本手引きで確認してください。

ガイダンス等は全てアイアシスタント及び掲示板でお知らせしますので、日頃から注意してください。

#### 【学生センター相談窓口】

教養教育科目に関すること = 学生センター 窓口

専門教育科目・教員免許や学芸員等資格取得に関すること = 学生センター 窓口

人文社会科学部HPにプログラムごとの履修のながれを示しています。

<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/>

# 1. 人文社会科学部の理念・目的

## 理念と目標

### \* 理念

岩手大学人文社会科学部は、教育研究における「総合化」と「専門深化」をとともに追究する。その実現のため、人文社会諸科学と芸術文化に関する総合的教育研究を、自然科学との連携のもとに行い、地域社会および国際社会の持続的発展に貢献する。

### \* 教育目標

人文社会科学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性、複雑化・高度化が進む現代社会に対応することができる総合的な知見・思考力・判断力、および広い国際的視野を育むための教育を行う。

カリキュラムにおいて、教養教育と専門教育との有機的な連携、および専門教育における人文社会諸科学・芸術文化と自然科学との密接な連携を図り、教育における「総合化と専門深化」の実現をめざす。

### \* 研究目標

人文社会科学部は、グローバル化が進む現代社会の諸問題を解明・解決し、地域社会に暮らす人々の生活に貢献することを目的として、以下の視点から独創的で多面的・総合的な研究を行う。

- (1) 固有の文化を育み、それを歴史的に継承してきた地域社会と、そこに暮らす人々の行動の特徴
- (2) グローバル化が地域社会に及ぼす影響
- (3) 地域における社会システム・環境システムの特徴

### \* 社会貢献目標

人文社会科学部は、地域社会が抱える諸課題を自らの課題として、これらに積極的に対応し、研究成果の地域還元や地域に対する社会教育・芸術活動を通じて地域社会に貢献する。さらに、教育研究活動の場を広げることによって、国際社会に貢献する。

## 教育目的

人文社会科学部は、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とする。

## 修得すべき能力

人文社会科学部は、その教育プログラムを通して、学生が次のような能力を獲得することを目指している。

- (1) 分野にとらわれず、幅広く深く学ぶ能力
- (2) 人間・文化・社会・環境を、現象だけにとらわれず、それぞれの本質的視点から分析し、それらを総合し、判断する能力
- (3) 地域社会および国際社会のなかで、学び、考え、行動するために必要なコミュニケーション能力

## 課程の教育目的

人間文化課程では、固有文化を育み歴史的に継承されてきた地域社会と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の健やかな生活に貢献できる人材、および地域文化を世界に向けて発信できる人材の養成を目的とする。

地域政策課程では、震災復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材の養成を目的とする。

## 2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは、学生が修得すべき学修の成果を示したもので、端的に言えば、学生が本学部卒業（＝学位授与）までに身に着けるべき知識や能力等です。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業認定・学位授与の方針実現のために、教育課程（カリキュラム）をどのように編成し、実施するかを示したものです。

本学部では、本学の学位授与の方針に基づき、学部および専修プログラムの卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を定めています。学修を進めるうえで、本学部卒業までに身に着けることができる知識・能力等を知り、その知識・能力等獲得のために、どのように学修内容が定められているのかを理解することは、皆さんの夢の実現への近道となることでしょう。

自立的な学修の第一歩として、卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針をよく読んで、学修に取り組んでください。

### 学 部

#### 卒業認定・学位授与の方針

人文社会科学部では、教養教育を重視しつつ「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており、所定の教育課程を学修し、以下に示す能力を修得した者に「学士（総合科学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 教養教育により幅広い分野の知識を修得している。
2. 人間・文化・社会・環境について、教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし、専門的な知識と理解を有するとともに、総合的・学際的な広い視野を有している。

（思考・判断）

3. 総合的な学修を活かし、変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

（技能・表現）

4. グロ-バル化が進む社会において、多様な考え方、異質なものを理解するとともに、自らの見解・成果を的確に表現し、発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

5. 地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み、貢献しようとする積極的姿勢と高い倫理性を有している。

#### 教育課程編成・実施の方針

人文社会科学部では、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を教育目的としている。

この目的を達成するために、教養教育で得た多様な学問領域の基礎的知識および基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力等を踏まえ、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、専門教育科目を「学部共通科目」、「課程科目」、「専修プログラム科目」の3つのカテゴリ-に分け、体系的な教育課程を編成する。

教育課程の特色として、学部共通科目の1～2年次必修科目に「総合科学基礎」、3年次必修科目に「総合科学論」を配置し、諸学問のあり方を規定する方法論および諸研究が学際的に取り組む現代の重要課題を学修し、自らの学修の学問的特性や位置づけに対する理解を深める。また、多様な学修成果、能力の養成を可能とする主・副専修プログラムを設けることで、専門性の強化および総合的・複眼的視野の充実に図るだけでなく、地域の諸課題に柔軟に対応できる思考力・判断力と、その解決に必要なコミュニケーション能力を育成する。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い分野の知識等修得のために、教養教育を必修とする。
2. 総合的・学際的視野を養うために、「総合科学基礎」、「総合科学論」、他課程科目および主・副専修プログラムの修得を必修とする。

(思考・判断)

3. 柔軟な思考力と的確な判断力を養うために、1つ以上の副専修プログラムの修得を必修とする。

(技能・表現)

4. 基礎的語学力および多様な考え方を理解し、自分の考えを表現する力を養うために、教養教育の外国語科目および1つ以上の副専修プログラムの修得を必修とし、学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

(関心・意欲・態度)

5. 諸課題に積極的に取り組み、貢献しようとする態度および高い倫理観を養うために、教養教育の探求知科目・実践知科目を必修とし、学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

## 人間文化課程 専修プログラム

### 国際文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

国際文化専修プログラムでは、アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して、国際的・多角的な視野から、多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. 世界の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。

(思考・判断)

4. 国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
5. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

6. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
7. 従来研究成果を批判的に検討し、自らの見解を論理的に組み立て、資料に基づいて適切に発表する

ことができる。

8．探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

（関心・意欲・態度）

9．世界の多様な文化への関心と、自ら進んで学ぶ意欲を持ち、多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を有している。

### 国際文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

国際文化専修プログラムでは、アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して、国際的・多角的な視野から、多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようなカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。

2．国際的な視野に立って異文化を理解することができるために、課程共通科目として、「国際交流研修」、「国際文化論」を選択必修科目に配置する。

3．世界の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解するために、プログラム基礎科目として、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の講義科目を配置する。

（思考・判断）

4．国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、プログラム展開科目として、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の演習・特講・講読科目を配置する。

5．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

（技能・表現）

6．グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を身につけるために、外国語コミュニケーション系の科目を段階的に学べるように配置する。

7．能動的な発信力を身につけるために、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の演習・講読科目を配置し、資料の読解力を向上させるとともに、先行研究を批判的に検討し、そのうえで自らの見解を発表できる能力を修得する。

8．探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができるために、「特別研究」を4年次に配置する。

（関心・意欲・態度）

9．世界の多様な文化への関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高め、多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を身につけるために、各分野の演習科目を配置する。

### 日本文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

日本文化専修プログラムでは、日本という地域における人間の文化的営み（言語・歴史・思想・文学・芸術等）について、広く学び、深く探究することを通して、グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

- 2．国際的な視野に立って日本文化を理解することができる。
- 3．日本の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
- 4．日本という地域における人間の文化的営みのいずれかに関して深い知識を有している。  
(思考・判断)
- 5．日本に関わる諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
- 6．探求する課題について論理的に思考・判断することができる。  
(技能・表現)
- 7．文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い、活用する能力を身に付けている。
- 8．探求する課題について、論理的な文章や作品によって自分の考えを表現することができる。  
(関心・意欲)
- 9．日本における多様な文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。  
(態度)
- 10．多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

#### 日本文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

日本文化専修プログラムでは、日本という地域における人間の様々な文化的営みについて深く分析・考察することを通して、グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

- (知識・理解)
- 1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
- 2．国際的な視野に立って日本文化を理解することができるために、課程共通科目として、1年次後期に「日本文化研究入門」を配置する
- 3．日本の言語・文化の諸相を理解するために、プログラム基礎科目として、各分野の講義等の科目を配置する。
- 4．日本に関する諸分野のいずれかに関して深い専門的知見を得るために、プログラム展開科目のフィールドワーク、特講等の科目を配置する。  
(思考・判断)
- 5．日本に関する諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、プログラム展開科目として、各分野の演習を配置する。
- 6．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。  
(技能・表現)
- 7．資料を扱う基礎を身につけるために、プログラム基礎科目に「日本書文化」の関連科目及びプログラム展開科目として各分野の講読、実習等の科目を配置する。
- 8．自ら課題を見出し、適切に調査・分析をすすめ、自らの意図するところを表現する力を養い、最終年次において「特別研究」を達成する。  
(関心・意欲)
- 9．日本における多様な文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、3・4年次に各分野の演習科目を配置する。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を身に付けるために、課題解決型の授業科目である各分野の演習科目を配置する。

### 現代社会共創プログラム 卒業認定・学位授与の方針

現代社会共創プログラムでは、人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し、その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって、複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ、高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解できる。
3. 人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について、広く分野横断的な知識と理解を備えている。

(思考・判断)

4. 現代社会の諸問題について、人間、文化、倫理、ケア、科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析することができる。
5. 性別、国籍、民族性、能力、障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに、それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を有している。

(技能・表現)

6. 専門的な文献資料を正確に読解する能力や、適切な問題設定をおこない議論を構築する能力、具体的な社会事象についての社会学的分析の能力を備えている。
7. 自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに、広く発信するコミュニケーション能力を有している。

(関心・意欲・態度)

8. 市民社会・地域社会の一員として、学修した専門的知識を生かしながら、持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲をもっている。

### 現代社会共創専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

現代社会共創プログラムでは、人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し、その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって、複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ、高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を涵養するために、課程共通科目を配置する。また、プログラム基礎科目として、1年次に専門基礎的な導入科目(「人文学入門」、「社会学入門」)を設置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解する能力を養成するために、課程共通科目の「国際交流研修」や外国語関連の科目を配置する。プログラム科目としては、外国の思想・文化やエスニシティに関連する講義・特講・演習科目を配置する。
3. 人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について、広く分野横断的な知識と理解を身につけるため、プログラム基礎科目および展開科目の選択必修においては、人文学的分野と社会学的分野の双

方から所定の単位の履修を義務づける。

(思考・判断)

4．現代社会の諸問題について、人間、文化、倫理、ケア、科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析する能力を養成するために、プログラム基礎科目および展開科目として、人文的分野の講義科目や特講科目を配置する。

5．性別、国籍、民族性、能力、障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに、それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を養成するために、プログラム基礎科目および展開科目として社会学的分野の講義科目や特講科目を配置する。

(技能・表現)

6．専門的な文献資料を正確に読解する能力や適切な問題設定をおこない議論を構築する能力、具体的な社会事象についての社会的分析の能力を養成するために、プログラム展開科目として各演習科目を配置する。

7．自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに、広く発信するコミュニケーション能力を養成するために、上記の各演習科目に加えて4年次に「特別研究」を配置する。

(関心・意欲・態度)

8．市民社会・地域社会の一員として、学修した専門的知識を生かしながら、持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲を涵養するために、各演習科目と「特別研究」を配置する。

#### 人間行動専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

人間行動専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1．人間行動に関わる専門分野について知識を幅広く身につけており、人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

(思考・判断)

2．人間行動に関する専門的な知識等を活用して、人間や社会に潜む問題や課題を見出しその解決に向けた思考を展開することができるとともに、社会に積極的な提案を行うことができる。

(技能・表現)

3．調査や実験に関する技法、そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけている。

4．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を有しているとともに、発表や討論の機会を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

5．経験(実習・実験)を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得している。

(関心・意欲)

6．専門分野の学問内容、最新の研究成果、動向等について興味・関心を持っている。

7．専門性を活かして、地域社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

8．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身に着けている。

## 人間行動専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

人間行動専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1．人間行動に関わる専門分野についての知識を幅広く身につけ、人間行動について総合的・多角的に理解できるようにするために、プログラム基礎科目として、人間行動に関わる各専門分野の基本的な講義科目、プログラム展開科目として各学問分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。さらに、人間行動の理解に関わる専門分野に通底する学際的な方法論を理解するための科目をプログラム基礎科目に配置する。

(思考・判断)

2．人間行動に関する専門的な知識等を活用して、人間や社会に潜む問題や課題を見出し、その解決に向けた思考と社会への積極的な提案を行うことができるようにするため、プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置する。

(技能・表現)

3．調査や実験に関する技法、そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけるために、プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置するとともに、基礎的および実践・応用的な統計分析に関する科目をプログラム基礎科目として配置する。

4．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を身につけるとともに、発表や討論の機会を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得できるようにするために、プログラム基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、プログラム展開科目としての各専門分野の演習科目、そして「特別研究」(4年次)を配置する。

5．経験(実習・実験)を通じたチームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得させるために、2年次の基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目を配置する。

(関心・意欲)

6．専門分野の学問内容に興味を抱かせるために、プログラム基礎科目として、各専門分野の基本的な講義科目が配置されている。また、最新の研究成果・動向等について興味・関心を持たせるために、プログラム展開科目では各専門分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。

7．専門性を活かした地域社会への参画の意欲を高めるために、「特殊実験調査・」(3年次)、「特別研究」(4年次)、ならびに各専門分野の講義科目と演習科目を配置する。

(態度)

8．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身につけられるようにするため、プログラム基礎科目に社会調査や心理学基礎実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置して、こうした態度の形成を促す。

## 地域政策課程 専修プログラム

### 政策法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

政策法務専修プログラムは、法学全体、とくに公法、刑事法、政治学などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

#### (知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義、歴史的経緯についての確に認識している。

#### (思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

#### (技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

#### (関心・意欲)

7. 地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

#### (態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

### 政策法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

政策法務専修プログラムでは、プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために、法・経済・環境に関する基礎および公法、刑事法、政治学などの専門に関する学修を目的に、以下のようにカリキュラムを編成する。

#### (知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目(「民法(総則)」など) 1・2年次に憲法・刑事法・政治学に關係する科目群を配置する。
2. 法学全体に関する基礎知識および公法・刑事法を中心とする専門的知識を修得するため、プログラム基礎科目として2・3年次に公法・刑事法・民法に關係する科目群を配置する。また、地域社会が抱える具体的・現実的課題の内容や意義、歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために、1・2年次にプログラム基礎科目として政治学に關係する科目群を配置する。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために、3年次にプログラム展開科目として訴訟法・民法(相続法)に関係する科目群を配置する。
4. 身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

(関心・意欲)

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を配置する。

### 企業法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

企業法務専修プログラムは、法学全体、とくに民法(財産法)、商法、労働法などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域産業が抱える現実的な法的(とくに私法に関する)課題の内容や意義、歴史的経緯についての的確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考

様式を身につけている。

4．法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法）、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域産業が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

6．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

7．地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

8．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9．中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

#### 企業法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

企業法務専修プログラムでは、プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために、法・経済・環境に関する基礎および民法（財産法）、商法、労働法などの専門に関する学修を目的に、以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目（「民法（総則）」など）、2年次にプログラム基礎科目として民法（物権・債権総論）などに関係する科目群を配置する。

2．法学全体に関する基礎知識および民法商法、労働法を中心とする専門的知識を修得するため、プログラム基礎科目として2・3年次に民法（債権各論）、民法（家族法）、商法などに関係する科目群を配置する。また、地域産業が抱える具体的・現実的課題の内容や意義、歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために、2・3年次にプログラム基礎科目として労働法などに関係する科目群を配置する。

（思考・判断）

3．法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために、3年次にプログラム展開科目として民法（相続法）、会社法、民事訴訟法などに関係する科目群を配置する。

4．身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3年次にプログラム展開科目として各演習科目

(いずれかを選択必修)を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

(関心・意欲)

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。

8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を配置する。

#### 地域社会経済専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、経済学や経営学などの専門的学修を通じて、地域社会や経済、産業、行政などに関わる政策的諸課題を多角的に分析でき、持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域社会・経済を総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 地域社会・経済について、多角的な視点から思考・判断する能力を身につけている。
4. 経済学や経営学などの専門的知識を活用し、地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断することができる

(技能・表現)

5. 地域社会・経済の現状や課題について、関連資料・データに基づき理論的・実証的に分析・評価することができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。

(関心・意欲)

7. 様々な経済事象や、地域社会・経済が抱える諸問題に強い関心を有している。
8. 経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし、地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 高い倫理性をそなえつつ、専門分野を社会に活かそうとする態度を身につけている。

#### 地域社会経済専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、経済学や経営学などの専門的学修を通じて、地域社会や経済、産業、行政などの政策的諸課題を多角的に分析でき、持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としている。この教育目標を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけるために、課程共通科目に必修科目として「経済学基礎Ⅰ」「民法(総則)Ⅰ」「環境政策論Ⅰ」を、プログラム基礎科目に選択必修科目として各分野の基礎的な関連科目を、それぞれ配置する。
2. 地域社会・経済を総合的に理解するための専門的知識を修得するために、課程共通科目とプログラム基礎科目を中心に、経済学や経営学などに関わる科目を選択必修科目として配置する。

(思考・判断)

3. 地域社会・経済について、多角的な視点から思考・判断する能力を身につけるために、プログラム基礎科目を中心に経済分野に加え、法・環境分野の関連科目を配置する。
4. 経済学や経営学などの専門的知識を活用し、地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断する能力を身につけるため、課程共通科目やプログラム基礎科目に加え、プログラム展開科目に経済学や経営学などに関わる専門的な科目を配置する。

(技能・表現)

5. 地域社会・経済の現状や課題について、関連資料・データに基づき評価・分析する能力を身につけられるよう、調査・分析、口頭発表・集団討議やレポート・論文作成等の教育活動を取り入れた演習科目等を必修・選択必修科目として配置し、学年に応じ系統的に履修できるようにする。
6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけるために、プログラム基礎科目やプログラム展開科目の演習科目、課程科目の「特別研究」等の口頭発表・集団討議等を取り入れた科目を、必修・選択必修科目とする。

(関心・意欲)

7. 経済関連科目をはじめとする各分野のプログラム基礎科目に加えて、プログラム展開科目に発展的な科目を配置し、また各分野の演習科目や「特別研究」を通じて、現代における様々な経済事象や、地域社会・経済が抱える諸問題への関心を高められるようにする。
8. プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目を、課程科目に「特別研究」等を必修科目や選択必修科目として配置することで、経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし、地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を高められるようにする。

(態度)

9. 高い倫理性をそなえつつ専門知識を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目の「特別研究」等を系統的に履修できるように配置する。

## 地域環境専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域環境専修プログラムでは、環境・法・経済分野の総合的学修を基礎に、環境学の専門的学修を地域における環境政策・環境マネジメントの実践に活かし、持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。
4. 環境学を始めとした専門的知識を活用し、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会とその環境に関する調査・分析ができ、そこに潜む問題点やその解決法について、自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 身近な地域から地球規模まで、多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境や地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

## 地域環境専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域環境専修プログラムでは、プログラムの学位授与の方針を実現するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目、1・2年次にプログラム基礎科目(「環境社会学」など)を配置する。
2. 環境学諸分野の研究手法と専門的知識を獲得させるために、プログラム基礎科目として2年次に「環境科学演習」や1～3年次に選択必修科目など、プログラム展開科目として2～4年次に選択必修科目や各分野の演習科目などを配置する。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえ、理解する能力を身につけるために、1年次に課程共通科目、1～3年次にプログラム基礎科目を配置する。
4. 獲得した様々な専門的知識を用いて、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に取り組む活動を行わせるために、選択必修のプログラム基礎科目に加え、各分野の実習・実験・演習科目(2・3年次履修)4年次必修の「特別研究」などを配置する。

(技能・表現)

5. 地域社会やその環境に関する調査ができ、そこに潜む問題点や解決法に関する見解・提言を論理的かつ

つ的確に説明するスキルを身につけられるように、プログラム基礎科目に「環境科学演習」、4年次に課程科目の「特別研究」など、調査・分析、フィールド実習、口頭発表、論文執筆などの教育活動を取り入れた科目を必修・選択必修として配置し、2年次から系統的に履修できるようにする。

- 6．柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために、プログラム基礎科目の「環境科学演習」、課程科目の「特別研究」、各分野の演習科目などを必修・選択必修とする。

（関心・意欲）

- 7．身近な地域環境の現状・取り組みに焦点を当てたプログラム基礎科目の「環境科学演習」等に加え、地球規模の環境問題や開発途上国の開発をテーマとしたプログラム基礎科目、各分野の演習など、幅広く環境の現実を扱う科目をプログラム基礎・展開科目を中心に配置し、多岐にわたる環境や環境問題への関心を高められるようにする。

- 8．環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境・地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を高められるよう、プログラム基礎科目の「環境科学演習」や、プログラム展開科目などを配置する。

（態度）

- 9．中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目に各分野の演習・実習・実験科目、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目などを系統的に履修できるように配置する。

### 3. 人文社会科学部教育課程規則（平成16年4月1日制定）

#### （趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第36条第5項の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### （目的）

第2条 本学部は、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的とする。

#### （科目及び単位の修得）

第3条 専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

- 2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。
- 3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

#### （授業時間割等の公示）

第4条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員等は、学期の初めまでに公示する。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

#### （履修科目の申告）

第5条 学生は、履修しようとする科目を学期の初めの指定の期間内に学部長に申告しなければならない。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度前項の申告をすることができる。
- 3 第1項及び第2項の申告をしない者は、単位の認定を受けることができない。
- 4 第1項及び第2項の申告の後には、履修取り消しを認める指定期間を除き、履修を取り消すことはできない。

#### （他学部科目等の履修）

第6条 学生は、所定の手続きを経て他学部の科目及び国際教育科目の授業科目を履修することができる。

- 2 他学部の学生が、本学部の科目の履修を願い出たときは前項に準ずる。

#### （他大学等での履修）

第7条 学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

- 2 前項及び前条第1項の規定により修得した単位及び海外の交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位は、別に定める単位数の範囲内で別表第2の専修プログラム科目又は自由選択科目の単位として認めることができる。

#### （試験）

第8条 試験を行う場合は、学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

#### （細則）

第9条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

（以下省略）

## 4. 人文社会科学部教育課程履修細則（平成28年4月1日制定）

### （趣旨）

第1条 この細則は、岩手大学人文社会科学部教育課程規則（以下「規則」という。）第9条の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）の専門教育の授業科目の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

### （学部共通科目）

第2条 本学部の基本的教育目標の一つである「総合性・学際性」を基礎とした幅広い視野を養うとともに、学問研究の根底的基礎となる考え方と方法を深化させ、課題探求能力を育成するため、学部共通科目を置く。

2 本学部の学生（以下「学生」という。）は、規則第3条第2項に定める学部共通科目の単位数のうち、「総合科学基礎」6単位（必修4単位、選択必修2単位）及び「総合科学論」2単位を修得しなければならない。

3 「総合科学基礎」及び「総合科学論」の履修に関し、必要な事項は別に定める。

### （課程科目）

第3条 学生は、課程全体の教育目標を達成するために、課程ごとに置く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、課程共通科目8単位以上及び「特別研究」6単位を修得しなければならない。

### （専修プログラム科目）

第4条 課程の専門領域の学修を深めるために専修プログラムを置く。

2 本学部の総合的な学修をより系統立てて行わせるために、専修プログラムに主専修プログラム及び副専修プログラムを置く。

3 学生は、主専修プログラムを2年次の前期末に選択し、学部長に届け出なければならない。

4 主専修プログラムは、所属する課程の専修プログラムから選択しなければならない。

5 学生は、第3項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、主専修プログラム科目44単位以上（うち、プログラム基礎科目を16単位以上、プログラム展開科目を10単位以上含まなければならない）修得しなければならない。

6 学生は、副専修プログラムを2年次の前期末に選択し、学部長に届け出なければならない。

7 副専修プログラムは、第3項に基づき届け出た主専修プログラム以外の専修プログラム（所属する課程以外の専修プログラム及び課程横断型プログラムを含む）から選択しなければならない。

8 学生は、第6項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、副専修プログラム科目16単位以上を修得しなければならない。

9 前項に定める単位数は、選択した専修プログラムの副専修プログラム科目又は課程横断型プログラムで定める授業科目から修得しなければならない。

10 専修プログラムに関し必要な事項は別に定める。

### （他課程科目）

第5条 学生は、他課程科目として、他の課程の「特別研究」を除く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。

2 他課程科目の単位数には、学部共通科目のうち、「総合科学基礎」（選択必修）の修得すべき最低必要単位数を超えて修得した2単位を加えることができる。

### （自由選択科目）

第6条 学生は、自由選択科目として、第2条から前条までに定める科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。ただし、第2条から前条までに定める科目の修得すべき最低単位数に算入した授業科目の単位は、自由選択科目の単位数に含めることができない。

- 2 前項及び第4条第8項の修得すべき単位数には、規則第7条第2項の規定により修得した単位を合計10単位まで加えることができる。
- 3 グローバル・地域人材育成プログラムを副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位のうち、海外の協定交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位を副専修プログラム科目の修得単位数に加えることができ、それ以外の単位は自由選択科目の修得単位数に加えることができる。
- 4 グローバル・地域人材育成プログラム以外を副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位を自由選択科目の修得単位数に加えることができるが、それが自由選択の修得すべき最低単位数を超えた場合でも本条第2項の規定に関わらず副専修プログラム科目の修得単位数に加えることはできない。

#### (特別研究)

第7条 課程科目に置く特別研究は、最終年次に履修するものとする。

- 2 特別研究(通年、6単位)を履修するには、当該科目を履修する前の学期の、卒業要件として履修する授業科目(教養教育科目を含み、課外科目を除く。以下「卒業要件科目」という。)の修得単位数が96単位以上でなければならない。
- 3 卒業論文等(特別研究の成果をまとめた論文又は作品をいう。)は、卒業予定年度の1月14日(9月卒業予定者の場合は、7月21日。その日が休日の場合は、その翌日)午後5時までに学務課に提出しなければならない。
- 4 特別研究の審査は、課程において行う。
- 5 特別研究の指導体制、題目届け等の手続き、その他必要な事項は別に定める。

#### (早期卒業)

第8条 学生は、岩手大学における在学期間の特例に関する規則に基づき、2年次の学年末において、卒業要件科目を90単位以上修得し、かつ、すべての学期において成績優秀者(岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則第4条に規定する者をいう。)である場合は、学部長に早期卒業の認定を願い出ることができる。

- 2 教務委員会の審査に基づき、教授会が早期卒業の可能性があると認める場合は、その者を早期卒業の候補者(以下「候補者」という。)とする。
- 3 候補者は、3年次に「特別研究」を履修しなければならない。
- 4 候補者は、候補者として認定を受けた後の各学期において、秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得なければならない。
- 5 前項の秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得ない場合は、候補者の資格を失う。
- 6 候補者は、3年次の学年末又は4年次の前期末に、特別研究の内容を中心とした最終試験を受けなければならない。
- 7 候補者が卒業の認定を受けるためには、特別研究の成績は秀又は優でなければならない。

#### (雑則)

第9条 本学部における転課程及び転学部に関し、必要な事項は別に定める。

- 2 本学部における編入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 3 本学部における再入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 4 本学部における科目等履修生に関し、必要な事項は別に定める。

(以下省略)

## 5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について

修得しなければならない最低単位数（教育課程規則第3条第1項および履修細則第2～6条より）

科目区分		単位数	
教養教育		28	
専門教育	学部共通科目	10	
	課程科目	課程共通科目	8
		特別研究	6
	専修プログラム科目	主専修プログラム科目	44
		プログラム基礎科目	(16単位以上)
		プログラム展開科目	(10単位以上)
		副専修プログラム科目	16
	他課程科目	4	
	自由選択科目	10	
	計		98
合計		126	

専門教育の科目区分ごとの必修・選択必修科目等

学部共通科目

必修：基礎ゼミナール（2単位）

総合科学基礎（4単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」を履修します。

総合科学論（2単位）

選択必修：総合科学基礎（2単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」から選択してください。

課程科目

・課程共通科目

選択必修：所属する課程の課程共通科目から8単位以上

なお、各課程で必修・選択必修の授業科目が下記のとおり決められています。

人間文化課程

選択必修：下記授業科目から4単位以上修得

国際交流研修，日本語表現基礎，日本語読解基礎，ドイツ語基礎，フランス語基礎，ロシア語基礎，中国語基礎，韓国語基礎，文学・思想研究方法論

選択必修：下記授業科目から4単位以上修得

国際文化論，日本文化研究入門，現代社会共創論，人間行動論

地域政策課程

必修：民法（総則），経済学基礎，環境政策論

選択必修：下記授業科目から2単位以上修得

法律学基礎，民法（総則），経済学基礎，環境経済論A

・特別研究

必修（6単位） 特別研究の期間は、最低1年間（2学期分の期間）です。履修申告は不要です。

## 専修プログラム科目

### ・主専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

### ・副専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムの副専修プログラム科目から、各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

## 他課程科目

所属していない課程の課程共通科目から4単位以上

## 自由選択科目

本学部専門教育の授業科目から10単位以上（課外科目を除く）<sup>1, 2</sup>

- 1 学部共通科目，課程科目，専修プログラム科目，他課程科目の修得しなければならない最低単位数を超えて修得した単位は，自由選択科目の単位に算入されます。
- 2 他学部・他大学の専門教育の授業科目の修得単位，国際教育科目の修得単位および海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，10単位を上限に自由選択科目の修得単位に算入することができます。
- 3 課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した学生に限り，海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，10単位を上限にグローバル・地域人材育成副専修プログラム科目または自由選択科目の修得単位に算入することができます。

## 授業科目履修に係る注意事項

授業科目名に「<sup>1</sup>」，「<sup>2</sup>」とある場合は，数字順に履修・単位修得することを推奨します。一部授業科目ではそれ以前に指定する授業科目の単位を修得しなければその授業科目を履修することができません（例：民法（総則）<sup>1</sup>の単位を修得しないと民法（総則）<sup>2</sup>を履修できない）。上記履修制限がある授業科目は「科目等一覧」にその旨を記載していますので，注意して履修申告してください。

同じ授業科目を，重複して単位修得することはできません。

各授業科目の対象学年より下の学年の学生はその授業科目を履修することはできませんが，それ以上の学年は履修することができます。

主専修に選択した専修プログラム以外の演習科目を履修しようとする場合は，事前にその授業科目を担当する教員の了承を得て履修してください。了承を得ずに履修すると，後日，履修申告が取り消され，単位修得できない場合があります。

集中講義の履修申告は，通常の履修申告（各学期の初め）とは別に行います。履修申告の開始時期や方法は，アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

一部授業科目はクォーター制で開講されます。クォーター制の授業科目は週2回開講となりますので，履修する授業科目の選択や履修申告の際はご注意ください。クォーター制で開講する授業科目は，科目等一覧の「備考」欄にその旨を記載しています。

上記のほか，一般的な注意事項等は，本手引きP1の「科目履修に当たって知っておくべきこと」で確認してください。

## 主・副専修プログラムについて

主・副専修プログラムの選択は2年次前期末までに行い，2年次後期から本格的な学修を開始します（1年次から履修可能な授業科目もあるので，詳細は科目等一覧で確認してください）。

主専修プログラムは、自分の所属する課程の専修プログラムから1つを選び、そのプログラムの授業科目（主専修プログラム科目）を履修し、学修を進めていきます。主専修プログラム科目は、選択した専修プログラムのプログラム基礎科目16単位以上、プログラム展開科目10単位以上を修得したうえで、44単位以上修得しなければなりません。各専修プログラムでは、必修・選択必修の授業科目等を【別表A】のとおり設定しているので、科目等一覧とあわせて確認し、履修・単位修得してください。

副専修プログラムは、全ての専修プログラム（課程問わず）および副専修専門プログラム・課程横断型プログラムから1つ以上を選んで学修を進めていきます。ただし、主専修プログラムに選択した専修プログラムを、副専修プログラムに選択することはできません。各専修プログラムでは、副専修プログラム用の授業科目（副専修プログラム科目）を定めていて（科目等一覧で、授業科目名の左に「副」とある授業科目）、その副専修プログラム科目から16単位以上修得しなければなりません。

副専修プログラムでも必修・選択必修の授業科目等が【別表B】のとおり決められており、それを満たさないと、副専修プログラム科目を16単位以上修得しても卒業できません。副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの授業科目は、副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの科目等一覧で確認してください。

なお、課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した場合は、前述の海外の交流協定締結大学への留学により修得した単位のうち、本学部の専門教育の授業科目に振り替えられなかった単位を自由選択科目の修得単位数に算入せず、10単位を上限に副専修プログラム科目の修得単位数に算入することができます。

副専修プログラム科目に定められている授業科目を履修する場合は、自分が選択している主・副専修プログラムに関わらず、履修申告時に、主専修プログラム科目として履修するのか、副専修プログラム科目として履修するのかを選択してください。時間割表には「主」用、「副」用の申告コードが記載されているので、注意して履修申告してください。

## 学修ポートフォリオについて

学修ポートフォリオは、学生が自分の学修状況の記録や関係する資料等を1つにまとめたものです。学期初めに履修申告した授業科目を記録したあと、履修している授業科目での配布物や課題、参考資料をまとめ、学期の終わりには履修した授業科目の成績を記録します。また、ポートフォリオを使って、次学期の学修目標や履修する授業科目の検討を行います。

## 用語解説

### 学修

学問をまなび身につけること。「学習」も同様の意味で使われるが、大学設置基準（大学を設置するのに必要な最低の基準を定めた文部科学省令）では「学修」を使っている。2012年8月の中央教育審議会答申の注釈に「大学設置基準上、大学での学びは『学修』としている。これは、大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した『単位制』により形成されていることによる。」とあり、高校までの教育（学習内容は学習指導要領で規定）と大学教育は異なることを意味している。

### 修得

学問・技芸などを学んで会得すること。主体的な学びの場である大学での学修は、「修得」であり、習い覚える「習得」とは異なる。

### 必修

卒業するために、必ず修得しなければならない授業科目・単位を指す。

### 選択必修

指定された複数の授業科目から、指定された単位数分の授業科目を修得する場合を指す。本手引きでは科目一覧表等で「選必」と略す場合がある。

### クォーター制

本学の授業科目は、通常、1年間で2つの学期に分けて開講しているが(セメスター制)、一部授業科目は、学期を4つに分けて開講している。1年間で4つの学期に分けることをクォーター制と言う。クォーター制で開講する授業科目は、週2回授業が行われ、期間はセメスター制の半分になる専修プログラム

専門性の明確化と総合化の充実を図ることを目的に作られたカリキュラム(教育計画)のこと。各専修プログラムはそれぞれの教育目的に基づき、授業科目の履修年次や必修・選択必修の授業科目を決めており、学生は体系的に学修を進めることができる(基礎的内容学修後に発展的内容を学修等)。また、主専修(高度な専門性養成)と副専修(一定程度の専門知識修得や技能養成)の組み合わせで、多様な学修目的・進路目標に応えることができる。

### ポートフォリオ

英語で、紙挟み、書類かばんという意味。「学修ポートフォリオ」は、学修状況を記録した書類や関係する資料等を、紙挟みや書類かばんに収めたように、取りまとめたものを指す。

【別表A】各専修プログラム 主専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：プログラム基礎科目から16単位以上，プログラム展開科目から10単位以上修得したうえで，計44単位以上修得

専修プログラム名	科目区分等		単位数	授業科目名等	
人間文化課程	国際文化	基礎	選必	10	2分野以上から修得 分野a<英米言語文化系> 英米文化論講義A～F，英米文学講義A～D，言語習得論AまたはB，英語学講義A～D 分野b<異文化コミュニケーション系> 異文化コミュニケーション論A～D 分野c<アジア言語文化系> 中国語学講義A～C，韓国文化論講義A～C 分野d<歴史系> アジア史講義AまたはB，西洋史講義A～C 分野e<ヨーロッパ言語文化系> ドイツ語学・文化論講義A～C，ドイツ文学講義A～C，フランス文学講義A～C，フランス文化論講義A～C，ヴィジュアル文化論講義，ヴィジュアル表現A～C 分野f<外国語コミュニケーション系> 英語コミュニケーション基礎 または ，総合中国語AまたはB，中国語コミュニケーション発展A～C，韓国語コミュニケーション発展A～C，総合ドイツ語AまたはB，ドイツ語コミュニケーション発展A～C，総合フランス語AまたはB，フランス語コミュニケーション発展A～C
		展開	選必	4	1分野から修得 分野g<英米言語文化系> 英語コミュニケーション論演習 または ，英米文化論・文学演習A～D，英語習得論演習A～D，英語学演習A～D 分野h<異文化コミュニケーション系> 異文化コミュニケーション論特講A～D，異文化コミュニケーション論演習A～D 分野i<アジア言語文化系> 中国語学演習A～C，韓国文化論演習A～C 分野j<歴史系> アジア史演習A～D，西洋史演習A～D 分野k<ヨーロッパ言語文化系> ドイツ語学・文化論演習A～C，ドイツ文学演習A～C，フランス文学演習A～C，フランス文化論演習，ヴィジュアル文化論演習A～C
	日本文化	基礎	選必	2	日本史講義A～D
			選必	2	日本思想史講義A～D
			選必	2	考古学講義A・B，考古学実習A～D
			選必	2	日本文学講義A～D
			選必	2	日本語学概説，日本語学講義A～D
			選必	2	書法基礎，日本書文化講義，日本書文化基礎A～D

人間文化課程	日本文化	展開	選必	6	2分野以上から修得 分野a: 日本史特講A～C, 日本史講読A・B 分野b: 日本思想史特講A～C, 日本思想史講読 分野c: 考古学特講A・B, 考古学各論 分野d: 日本文学特講A～C, 日本文学講読A・B 分野e: 日本語学特講A・B, 日本語学講読A・B 分野f: 日本書文化展開A～D, 日本書文化講読
			選必	4	1分野から修得 分野g: 日本史演習～ 分野h: 日本思想史演習～ 分野i: 考古学演習～ 分野j: 日本文学演習A～D 分野k: 日本語学演習A～D 分野l: 日本書文化演習A～D
	現代社会共創	基礎	選必	4	各分野から2単位以上修得 分野a: 人文学入門A～C 分野b: 社会学入門A～D
			選必	4	各分野から2単位以上修得 分野c: 人間学講義, 倫理学講義, 社会文化思想論講義 分野d: ジェンダー論講義, エスニシティ論講義, 社会問題論講義
		展開	選必	4	人間学特講AまたはB, 倫理学特講AまたはB, 社会文化思想論特講AまたはB, ジェンダー論特講AまたはB, エスニシティ論特講AまたはB, 社会問題論特講
			選必	6	各分野から2単位以上修得 分野e: 人間学演習A～D, 倫理学演習A～D, 社会文化思想論演習AまたはB 分野f: ジェンダー論演習A～D, エスニシティ論演習A～D, 社会問題論演習A～D
	人間行動	基礎	必修	12	社会調査基礎, 心理学基礎実験(心理学実験), 特殊実験調査, 特殊実験調査, 行動科学方法論(心理学研究法)
			選必	4	社会調査実習, 基礎統計学, 統計学(検定・推定), 行動科学統計法(心理学統計法)
			選必	4	心理学概論, 実験心理学(神経・生理心理学), 認知心理学(知覚・認知心理学), 人格心理学(感情・人格心理学), スポーツ心理学, 臨床心理学(臨床心理学概論)
			選必	4	社会心理学(社会・集団・家族心理学), 地域社会学, ソーシャルデザイン論, スポーツ社会学
展開	選必	8	分野a から4単位以上, 分野b から4単位以上で合計8単位以上修得 分野a<個人系> 実験心理学演習AまたはB, 認知心理学演習AまたはB, 人格心理学演習AまたはB, スポーツ心理学演習AまたはB, 臨床心理学演習AまたはB 分野b<集団系> 社会心理学演習AまたはB, 犯罪心理学演習, 地域社会学演習AまたはB, ソーシャルデザイン論演習AまたはB, 行動計量学演習AまたはB, スポーツ社会学演習AまたはB		

地域政策課程	政策法務	基礎	選必	6	憲法（人権） ， 憲法（統治機構）A ， 刑法総論A ， 政治学（政治過程） ， 刑事政策
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
		展開	選必	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必	4	同名演習科目の および を修得 政治学演習 ・ ， 憲法演習 ・ ， 民法（財産法）演習 ・ ， 民法（家族法）演習 ・ ， 商法演習 ・ ， 刑法演習 ・ ， 刑事訴訟法演習 ・ ， 労働法演習 ・ ， 理論経済学演習 ・ ， 政治経済学演習 ・ ， 財政学演習 ・ ， 経営学演習 ・ ， 環境政策論演習 ・ ， 環境経済論演習 ・ ， 環境社会学演習 ・ ， 自然環境学演習 ・ ， 環境生態学演習 ・
	企業法務	基礎	選必	6	民法（物権） ， 民法（債権総論）A ， 民法（債権各論）A ， 会社法A ， 労働法（個別法）
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
		展開	選必	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必 」と同じ
	地域社会経済	基礎	選必	6	理論経済学 または ， 政治経済学 または ， 財政学 または ， 農業経済論 または ， 経営学総論 または ， 国際経済論AまたはB ， ミクロ経済学 ， 金融論
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
			選必	2	地域経済調査演習 ， 地域経済実践演習
		展開	選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必 」と同じ
	地域環境	基礎	選必	4	環境政策論 ， 環境社会学 または
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
			選必	4	環境科学演習 ， 環境社会調査演習 ， 環境科学実験
		展開	選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必 」と同じ

【別表B】各専修プログラム 副専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：各専修プログラムの副専修プログラム科目（科目等一覧で授業科目名に「副」とある授業科目（課程横断型を除く））から16単位以上修得

課程	プログラム名	要件	
人間文化課程	国際文化	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	日本文化	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	現代社会共創	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	人間行動	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
地域政策課程	政策法務	憲法（人権），憲法（統治機構）A，刑法総論A，政治学（政治過程），刑事政策から6単位以上修得	
	企業法務	民法（物権），民法（債権総論）A，民法（債権各論）A，会社法A，労働法（個別法）から6単位以上修得	
	地域社会経済	指定なし 人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎」を履修することが望ましい	
	地域環境	選必	環境政策論，環境社会学 または から4単位以上修得
		選必	環境生態学A，自然環境学A，環境統計学 または から2単位以上修得
	地域社会連携（副専修専門プログラム）	選必	経営学総論 または ，会計学 または ，政治経済学 または ，農業経済論 または ，財政学 または ，社会保障論，国際経済論AまたはB，地方財政論，協同組合論，マーケティング論，企業論，労働経済論，日本経済論，経済学特講から6単位以上修得
		選必	行政学，会社法AまたはB，労働法（個別法），労働法（集団法），社会保障法，地方自治法，国際法AまたはB，刑事政策，政治学（政治過程），政治学（政治理論），国際政治学から2単位以上修得
		選必	環境経済論B，環境政策論，環境社会学 または ，環境生態学A，自然環境学A，環境統計学 から2単位以上修得

グローバル・地域人材育成プログラムについては， - 47ページで確認してください。

## 6. 人間文化課程 科目等一覧

注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。

注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

注3 「総合科学基礎（地域政策）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

### 課程科目単位修得要件

選必 から4単位以上、選自 から4単位以上修得

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考
			必	選	自			
学部共通科目	2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	集中 集中 集中 集中 集中
	2	総合科学論	2			3前	1回/1年	
	4	総合科学基礎（人間文化）A	2			1前	1回/1年	
		総合科学基礎（人間文化）B	2			1後	1回/1年	
	2	総合科学基礎（地域政策）A		2		2前	1回/1年	
		総合科学基礎（地域政策）B		2		2後	1回/1年	
	-	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年	
		統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年	
		プログラミング基礎			1	1後	1回/1年	
	プログラミング入門			2	2前	1回/1年		
課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	選必
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		1後	1回/1年	
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		1後	1回/1年	
		ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		文学・思想研究方法論		2		1後	1回/1年	
	4	国際文化論		2		1後	1回/1年	選必
		日本文化研究入門		2		1後	1回/1年	
		現代社会共創論		2		1後	1回/1年	
		人間行動論		2		1後	1回/1年	
		特別研究	6			4通	1回/1年	
他課程科目	4	法律学基礎		2		2前	1回/1年	要「 」 要「 」
		民法（総則）		2		2前	1回/1年	
		民法（総則）		2		2後	1回/1年	
		経済学基礎		2		2前	1回/1年	
		経済学基礎		2		2後	1回/1年	
		環境政策論		2		2前	1回/1年	
		環境経済論A		2		2後	1回/1年	

\* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

# 国際文化専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プ ロ グ ラ ム 基 礎 科 目	副 ドイツ語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年	
	副 英米文化論講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必 a
	副 英米文化論講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文化論講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文化論講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文化論講義 E		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文化論講義 F		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文学講義 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 英米文学講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文学講義 D		2		1・2後	1回/2年	
	副 言語習得論 A		2		2前	1回/1年	
	副 言語習得論 B		2		2後	1回/1年	
	副 英語学講義 A		2		2前	1回/1年	
	副 英語学講義 B		2		2後	1回/1年	
	副 英語学講義 C		2		2前	1回/1年	
	副 英語学講義 D		2		2後	1回/1年	
	副 スキルアップ・イングリッシュ A		2		2・3前	1回/2年	
	副 スキルアップ・イングリッシュ B		2		1・2後	1回/2年	
	副 英語コミュニケーション基礎		2		2前	1回/1年	選必 f
	副 英語コミュニケーション基礎		2		2後	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展		2		3前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展		2		3後	1回/1年	
	副 アカデミック・イングリッシュ		2		2・3前	1回/2年	
	副 アカデミック・イングリッシュ		2		2・3前	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュ A		2		2・3後	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュ B		2		2・3後	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 A		2		2・3前	1回/2年	選必 b
	副 異文化コミュニケーション論 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 D		2		1・2後	1回/2年	
	副 中国文学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国文学講義 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 中国語学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 c
	副 中国語学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 中国語学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合中国語 A		2		2・3前	1回/2年	選必 f
	副 総合中国語 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年	
副 中国語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 中国語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年		
副 アジア史講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必 d	
副 アジア史講義 B		2		2・3前	1回/2年		
副 中国思想史講義 A		2		2・3前	1回/2年		
副 中国思想史講義 B		2		1・2後	1回/2年		
副 西洋史講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 d	
副 西洋史講義 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 西洋史講義 C		2		2・3・4前	1回/3年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目		単位数			対象 学年	開講 間隔	備考		
	必	選	自							
プログラム 基礎科目	副	ドイツ語学・文化論講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 e		
	副	ドイツ語学・文化論講義 B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	ドイツ語学・文化論講義 C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	ドイツ文学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	ドイツ文学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	ドイツ文学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	フランス文学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	フランス文学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	フランス文学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年			
	副	フランス文化論講義 A		2		1・2・3後	1回/3年			
	副	フランス文化論講義 B		2		1・2・3後	1回/3年			
	副	フランス文化論講義 C		2		1・2・3後	1回/3年			
	副	ヴィジュアル文化論講義		2		2前	1回/1年			
	副	ヴィジュアル表現 A		1		2・3・4前	1回/3年			
	副	ヴィジュアル表現 B		1		2・3・4前	1回/3年			
	副	ヴィジュアル表現 C		1		2・3・4前	1回/3年			
	副	総合ドイツ語 A		2		2・3前	1回/2年			
	副	総合ドイツ語 B		2		2・3前	1回/2年			
	プログラム 展開科目	副	ドイツ語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前		1回/3年	選必 f
		副	ドイツ語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前		1回/3年	
副		ドイツ語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年			
副		総合フランス語 A		2		2・3前	1回/2年			
副		総合フランス語 B		2		2・3前	1回/2年			
副		フランス語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年			
副		フランス語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年			
副		フランス語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年			
副		基礎法 A		2		2・3前	1回/2年			
副		基礎法 B		2		2・3後	1回/2年			
副		英米文化論・文学演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 g		
副		英米文化論・文学演習 B		2		3・4後	1回/2年			
副	英米文化論・文学演習 C		2		3・4前	1回/2年				
副	英米文化論・文学演習 D		2		3・4後	1回/2年				
副	英語習得論演習 A		2		3・4前	1回/2年				
副	英語習得論演習 B		2		3・4後	1回/2年				
副	英語習得論演習 C		2		3・4前	1回/2年				
副	英語習得論演習 D		2		3・4後	1回/2年				
副	英語学演習 A		2		3・4前	1回/2年				
副	英語学演習 B		2		3・4後	1回/2年				
副	英語学演習 C		2		3・4前	1回/2年				
副	英語学演習 D		2		3・4後	1回/2年				
副	英語コミュニケーション論演習		2		3後	1回/1年				
副	英語コミュニケーション論演習		2		4前	1回/1年				
副	英語コミュニケーション実践		2		3前	1回/1年				
副	英語コミュニケーション実践		2		3後	1回/1年				
副	異文化コミュニケーション論特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 h			
副	異文化コミュニケーション論特講 B		2		2・3後	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論特講 C		2		3・4前	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論特講 D		2		2・3後	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論演習 A		2		3・4前	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論演習 B		2		3・4後	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論演習 C		2		3・4前	1回/2年				
副	異文化コミュニケーション論演習 D		2		3・4後	1回/2年				
副	中国文学特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 i			
副	中国文学特講 B		2		2・3後	1回/2年				
副	中国語学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年				
副	中国語学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年				
副	中国語学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年				
副	韓国文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年				
副	韓国文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年				
副	韓国文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年				

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	副 アジア史特講 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 アジア史講読 A		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史講読 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 アジア史講読 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史講読 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 アジア史演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 j
	副 アジア史演習 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 アジア史演習 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史演習 D		2		3・4後	1回/2年	
	副 中国思想史特講 A		2		3・4前	1回/2年	
	副 中国思想史特講 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史特講 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 西洋史講読 A		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史講読 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史講読 C		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史講読 D		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 j
	副 西洋史演習 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 西洋史演習 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史演習 D		2		3・4後	1回/2年	
	副 ドイツ語学・文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	選必 k
	副 ドイツ語学・文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語学・文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文化論演習		2		2・3後	1回/2年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 C		2		2・3・4後	1回/3年	
副 フランス語コミュニケーション実践 A		2		2・3・4後	1回/3年		
副 フランス語コミュニケーション実践 B		2		2・3・4後	1回/3年		
副 フランス語コミュニケーション実践 C		2		2・3・4後	1回/3年		
副 ギリシア語		2		2・3後	1回/2年		
副 ラテン語		2		2・3前	1回/2年		
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得(必修含む) 注) 修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	20	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 日本文化専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム基礎科目	副 日本史講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必
	副 日本史講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本史講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本思想史講義 A		2		1・2後	1回/2年	選必
	副 日本思想史講義 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本思想史講義 C		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本思想史講義 D		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本文学講義 A		2		1・2後	1回/2年	選必
	副 日本文学講義 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本文学講義 C		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本文学講義 D		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学概説		2		2前	1回/1年	選必
	副 日本語学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語学講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語教育概論 I		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教育概論		2		2後	1回/1年	
	副 日本語教授法講義		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教授法講義		2		2後	1回/1年	
	副 学校教育を受けるための日本語		2		2後	1回/1年	
	副 書法基礎		2		1後	1回/1年	選必
	副 日本書文化講義		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 A		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 C		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 D		2		1・2後	1回/2年	
副 考古学講義 A		2		1後	1回/1年	選必	
副 考古学講義 B		2		2前	1回/1年		
副 考古学実習 A		2		2前	1回/1年		
副 考古学実習 B		2		2後	1回/1年		
副 考古学実習 C		2		3前	1回/1年		
副 考古学実習 D		2		3後	1回/1年		
副 漢文学概論		2		2前	1回/1年		
副 漢文学講義		2		2後	1回/1年		
プログラム展開科目	副 日本史特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 a
	副 日本史特講 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 日本史講読 A		2		3・4前	1回/2年	選必 g
	副 日本史講読 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本思想史特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 b
	副 日本思想史特講 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本思想史特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	
副 日本思想史講読		2		3・4前	1回/2年		
副 日本思想史講読		2		3・4後	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	日本思想史演習		2		3・4前	1回/2年	選必 h
	日本思想史演習		2		3・4後	1回/2年	
	日本思想史演習		2		3・4前	1回/2年	
	日本思想史演習		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本文学特講A		2		2・3後	1回/2年	選必 d
	副 日本文学特講B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本文学特講C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 日本文学講読A		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本文学講読B		2		3・4前	1回/2年	
	日本文学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必 j
	日本文学演習B		2		3・4後	1回/2年	
	日本文学演習C		2		3・4前	1回/2年	
	日本文学演習D		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本語学講読A		2		2・3後	1回/2年	選必 e
	副 日本語学講読B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語学特講A		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語学特講B		2		2・3後	1回/2年	
	日本語学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必 k
	日本語学演習B		2		3・4後	1回/2年	
	日本語学演習C		2		3・4前	1回/2年	
	日本語学演習D		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本書文化講読		2		3・4前	1回/2年	選必 f
	副 日本書文化展開A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本書文化展開B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本書文化展開C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本書文化展開D		2		2・3前	1回/2年	
	日本書文化演習A		2		3後	1回/1年	選必 l
	日本書文化演習B		2		3前	1回/1年	
	日本書文化演習C		2		4前	1回/1年	
	日本書文化演習D		2		4後	1回/1年	
	副 考古学特講A		2		2・3後	1回/2年	選必 c
	副 考古学特講B		2		2・3後	1回/2年	
	副 考古学各論		2		2・3・4前	1回/3年	
考古学フィールドワークA		2		2前	1回/1年	集中	
考古学フィールドワークB		2		2前	1回/1年	集中	
考古学フィールドワークC		2		3前	1回/1年	集中	
考古学フィールドワークD		2		3前	1回/1年	集中	
考古学演習		2		3・4前	1回/2年	選必 i	
考古学演習		2		3・4後	1回/2年		
考古学演習		2		3・4前	1回/2年		
考古学演習		2		3・4後	1回/2年		
副 日本文化史特講		2		2後	1回/1年		
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得(必修含む) 注) 修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 現代社会共創専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考		
		必	選	自					
プログラム 基礎科目	副 人文学入門 A		2		1・2後	1回/2年	選必	a	
	副 人文学入門 B		2		1・2後	1回/2年			
	副 人文学入門 C		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 A		2		1後	1回/1年	選必	b	
	副 社会学入門 B		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 C		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 D		2		1・2後	1回/2年			
	副 人間学講義		2		1・2後	1回/2年	選必	c	
	副 倫理学講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会文化思想論講義		2		1・2後	1回/2年	選必	d	
	副 ジェンダー論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 エスニシティ論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会問題論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 論理学		2		2・3前	1回/2年			
プログラム 展開科目	副 人間学特講 A		2		2・3前	1回/2年	選必		
	副 人間学特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 倫理学特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 倫理学特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会文化思想論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会文化思想論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 ジェンダー論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 ジェンダー論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 エスニシティ論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 エスニシティ論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会問題論特講		2		2・3前	1回/2年			
	人間学演習 A		2		2・3後	1回/2年			選必
	人間学演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	人間学演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	人間学演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	倫理学演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	倫理学演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	倫理学演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	倫理学演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	社会文化思想論演習 A		2		2・3後	1回/2年	選必	f	
	社会文化思想論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	ジェンダー論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	ジェンダー論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	ジェンダー論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	ジェンダー論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	エスニシティ論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	エスニシティ論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	エスニシティ論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	エスニシティ論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	社会問題論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	社会問題論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	社会問題論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	社会問題論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	副 ギリシア語		2		2・3後	1回/2年			
	副 ラテン語		2		2・3前	1回/2年			
	主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得(必修含む) 注)修得要件を満たすこと			
	副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注)修得要件を満たすこと			

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 人間行動専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講間隔	備考
		必	選	自			
プログラム基礎科目	社会調査基礎	4			2前	1回/1年	
	心理学基礎実験（心理学実験）	2			2後	1回/1年	
	特殊実験調査	2			3前	1回/1年	
	特殊実験調査	2			3後	1回/1年	
	行動科学方法論（心理学研究法）	2			3後	1回/1年	
	社会調査実習		2		2後	1回/1年	要「社会調査基礎」
	基礎統計学		2		1後	1回/1年	
	副 統計学（検定・推定）		2		2前	1回/1年	選必
	副 行動科学統計法（心理学統計法）		2		2前	1回/1年	
	副 心理学概論		2		1後	1回/1年	
	副 実験心理学（神経・生理心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必
	副 認知心理学（知覚・認知心理学）		2		2前	1回/1年	
	副 人格心理学（感情・人格心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	副 スポーツ心理学		2		1後	1回/1年	
	副 臨床心理学（臨床心理学概論）		2		2・3前	1回/2年	
	副 社会心理学（社会・集団・家族心理学）		2		2前	1回/1年	選必
副 地域社会学		2		1後	1回/1年		
副 ソーシャルデザイン論		2		1後	1回/1年		
副 スポーツ社会学		2		2前	1回/1年		
プログラム展開科目	副 実験心理学特講（学習・言語心理学）		2		2・3前	1回/2年	選必 a
	実験心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	
	実験心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 認知心理学特講（知覚・認知心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必 a
	認知心理学演習 A		2		2後	1回/1年	
	認知心理学演習 B		2		3前	1回/1年	
	副 人格心理学特講		2		2・3後	1回/2年	選必 a
	人格心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	
	人格心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 心理演習		2		3後	1回/1年	
	副 スポーツ心理学特講		2		2前	1回/1年	選必 a
	スポーツ心理学演習 A		2		3・4前	1回/2年	
	スポーツ心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 臨床心理学特講（心理学的支援法）		2		2・3前	1回/2年	選必 a
	臨床心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	
	臨床心理学演習 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 心理検査法実習（心理的アセスメント）		2		3・4前	1回/2年	
	副 社会心理学特講（産業・組織心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必 b
	副 犯罪社会心理学（司法・犯罪心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	社会心理学演習 A		2		2後	1回/1年	
	社会心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 犯罪心理学演習		2		3・4前	1回/2年	
	副 社会調査特講		2		2前	1回/1年	選必 b
	副 地域社会学特講		2		2前	1回/1年	
	地域社会学演習 A		2		2後	1回/1年	
	地域社会学演習 B		2		3前	1回/1年	
	副 ソーシャルデザイン論特講		2		2前	1回/1年	集中
	副 ソーシャルデザイン論演習 A		2		2後	1回/1年	選必 b
副 ソーシャルデザイン論演習 B		2		3前	1回/1年		
副 行動計量学		2		2前	1回/1年	選必 b	
行動計量学演習 A		2		2後	1回/1年		
行動計量学演習 B		2		3前	1回/1年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目		単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
	必	選	自						
プ ロ グ ラ ム 展 開 科 目	副	スポーツ社会学特講		2		2後	1回/1年	選必 b	
		スポーツ社会学演習A		2		2後	1回/1年		
		スポーツ社会学演習B		2		3前	1回/1年		
	副	基礎心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	応用心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	文化心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	心理療法論（心理学的支援法）		2		3・4前	1回/2年		集中
	副	心理学通論		2		2後	1回/1年		
	副	生理学特講		2		2・3前	1回/2年		
副	現代社会論		2		2前	1回/1年		集中	
主専修プログラム最低必要単位数			12	32	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと			
副専修プログラム最低必要単位数			-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと			

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 7. 地域政策課程 科目等一覧

- 注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。
- 注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『（単位修得が必要な授業科目名の数字）』」を記載しています。
- 注3 「総合科学基礎（人間文化）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考	
			必	選	自				
学部共通科目	2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	集中 集中 集中 集中 集中	
	2	総合科学論	2			3前	1回/1年		
	4	総合科学基礎（地域政策）A	2			1前	1回/1年		
		総合科学基礎（地域政策）B	2			1後	1回/1年		
	2	総合科学基礎（人間文化）A		2		2前	1回/1年		
		総合科学基礎（人間文化）B		2		2後	1回/1年		
	-	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年		
		統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年		
		プログラミング基礎			1	1後	1回/1年		
	プログラミング入門			2	2前	1回/1年			
課程科目	8	法律学基礎		2		1前	1回/1年	要「 」 要「 」	
		民法（総則）	2			1前	1回/1年		
		民法（総則）		2			1後		1回/1年
		経済学基礎	2			1前	1回/1年		
		経済学基礎		2			1後		1回/1年
		環境政策論	2			1前	1回/1年		
		環境経済論 A		2			1後		1回/1年
6	特別研究	6			4通	1回/1年			
他課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年		
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		2前後	1回/1年		
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		2前後	1回/1年		
		ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		文学・思想研究方法論		2		2後	1回/1年		
		国際文化論		2		2後	1回/1年		
		日本文化研究入門		2		2後	1回/1年		
		現代社会共創論		2		2後	1回/1年		
		人間行動論		2		2後	1回/1年		

\* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

# 政策法務専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 基礎科目	副 憲法（人権）		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 憲法（人権）		2		2前	1回/1年	要「 」	
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年		
	副 政治学（政治過程）		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
	副 民法（物権）		2		2前	1回/1年		
	副 民法（物権）		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（家族法）A		2		2前	1回/1年		
	副 民法（家族法）B		2		2後	1回/1年		
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年		
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年		
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年		
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年		
	副 刑事訴訟法（証拠法・公判法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3前	1回/2年		
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3後	1回/2年	要「 」	
	副 行政法（救済法）		2		2・3前	1回/2年		
	副 行政法（救済法）		2		2・3後	1回/2年	要「 」	
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年		
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年		
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 刑事政策		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 財政学		2		2前	1回/1年		
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 社会保障論		2		2後	1回/1年	集中	
副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」		
副 法律学特講A		2		2・3・4前	1回/3年	集中		
副 法律学特講D		2		2・3・4後	1回/3年	集中		
プログラム 展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必	
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年		
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年		
	副 民事訴訟法A		2		3・4前	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	副 民事訴訟法 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 刑事訴訟法（捜査法・公訴法）		2		3・4前	1回/2年	
	国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
	少年法		2		3・4前	1回/2年	集中
	法律学特講 B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 E		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講 F		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	選必 要「 」
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	財政学演習		2		3前	1回/1年	
	財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 企業法務専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム基礎科目	副 民法（物権）		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 民法（物権）		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 会社法A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 会社法B		2		2後	1回/1年		
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
	副 憲法（人権）		2		1後	1回/1年		
	副 憲法（人権）		2		2前	1回/1年	要「 」	
	副 民法（家族法）A		2		2前	1回/1年		
	副 民法（家族法）B		2		2後	1回/1年		
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年		
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年		
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年		
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年		
	副 商法A		2		2前	1回/1年		
	副 商法B		2		2後	1回/1年		
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 理論経済学		2		2前	1回/1年		
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年		
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 会計学		2		2前	1回/1年		
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年		
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 金融論		2		2・3前	1回/2年	集中	
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年		
	副 法律学特講A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 法律学特講D		2		2・3・4後	1回/3年	集中	
プログラム展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必	
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年		
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年		
	副 民事訴訟法A		2		3・4前	1回/2年		
	副 民事訴訟法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 金融法		2		2・3後	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	知的財産法		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 E		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講 F		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	企業論		2		2・3前	1回/2年	
	労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	財政学演習		2		3前	1回/1年	
	財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）	
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域社会経済専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 理論経済学		2		2前	1回/1年	
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年	
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年	
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年	
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年	
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 国際経済論 A		2		2前	1回/1年	
	副 国際経済論 B		2		2後	1回/1年	
	副 ミクロ経済学		2		1後	1回/1年	
	副 金融論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 会計学		2		2前	1回/1年	
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 経済外書講読		2		2・3後	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3後	1回/2年	要「 」
	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年	
	副 環境経済論 B		2		2前	1回/1年	
	副 環境生態学 A		2		2前	1回/1年	
	副 自然環境学 A		2		2前	1回/1年	選必
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年	
	副 地域経済調査演習		2		2前	1回/1年	選必
	副 地域経済実践演習		2		2後	1回/1年	
プログラム 展開科目	副 応用マクロ経済学		2		3・4前	1回/2年	
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	副 マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 日本経済史		2		2・3後	1回/2年	
	副 人的資源管理論		2		2・3後	1回/2年	要「経営学総論」
	副 経済思想		2		2・3後	1回/2年	
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本経済論		2		2・3後	1回/2年	集中
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	
	副 経済学特講 A		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 経済学特講 B		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	副 理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	副 政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	副 財政学演習		2		3前	1回/1年	
副 財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	選必
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域環境専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 基礎科目	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	選必	要「 」 副選
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年		
	副 環境社会学		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 環境社会学		2		2後	1回/1年		要「 」 副選
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 環境生態学B		2		2・3後	1回/2年		
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 自然環境学B		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 環境統計学		2		2前	1回/1年		要「 」 副選
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年		
	副 政治学（政治過程）		2		1後	1回/1年		
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年		
	副 理論経済学		2		2前	1回/1年		
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年		
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年		
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年		
	副 財政学		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 ミクロ経済学		2		1後	1回/1年		
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境科学演習		2		2前	1回/1年	選必	
	副 環境科学実験		2		2・3前	1回/2年		集中
	副 環境社会調査実習		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境社会調査演習		2		2前	1回/1年	選必	
プログラム 展開科目	副 環境経済論特講		2		2・3前	1回/2年		
	副 環境社会学特講		2		3・4前	1回/2年		
	副 倫理学特講A		2		2・3前	1回/2年		
	副 環境倫理学		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年		
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年		要「財政学」
	副 環境学特講A		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 環境学特講B		2		2・3・4前	1回/3年		集中
副 環境学特講C		2		2・3・4前	1回/3年		集中	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 展開科目	環境政策論演習		2		3前	1回/1年		
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年		
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年		
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年		
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年		
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	政治学演習		2		3前	1回/1年		
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	憲法演習		2		3前	1回/1年		
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年		
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年		
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	商法演習		2		3前	1回/1年		
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	刑法演習		2		3前	1回/1年		
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年		
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	労働法演習		2		3前	1回/1年		
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年		
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年		
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
財政学演習		2		3前	1回/1年			
財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」		
経営学演習		2		3前	1回/1年			
経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」		
	主専修プログラム最低必要単位数		44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと			
	副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域社会連携専修プログラム（副専修専門プログラム）

副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 27ページの【別表B】を確認すること。

人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎」を履修することが望ましい。  
 注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 科目	副 経営学総論		2		2前	1回/1年	
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 会計学		2		2前	1回/1年	
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年	
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年	
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年	
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 社会保障論		2		2後	1回/1年	集中
	副 国際経済論A		2		2前	1回/1年	
	副 国際経済論B		2		2後	1回/1年	
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	副 マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本経済論		2		2・3後	1回/2年	集中
	副 経済学特講A		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 経済学特講B		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 会社法A		2		2前	1回/1年	
	副 会社法B		2		2後	1回/1年	
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 刑事政策		2		2前	1回/1年	
	副 政治学(政治過程)		2		1後	1回/1年	
	副 政治学(政治理論)		2		2前	1回/1年	
	副 国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	
副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」	
副 環境社会学		2		2前	1回/1年		
副 環境社会学		2		2後	1回/1年	要「 」	
副 環境生態学A		2		2前	1回/1年		
副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 8 . 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧

### 課程横断型プログラム

人間文化課程，地域政策課程のどちらにも属さない，課程横断型のプログラムです。どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できます。（このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。）

### グローバル・地域人材育成プログラム

#### 目的・養成人材像

海外の協定校への留学で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし，個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく，社会的・文化的あるいは環境問題にかかわる地域の諸問題の解決に貢献する能力と意欲を育成します。

#### 科目の履修について

本プログラムを副専修プログラムに選択し，要件を満たして修得した単位は，主専修プログラムの単位数に算入することはできません。

なお，必修ではないが，留学前に人間文化課程の課程科目「国際交流研修」を履修しておくことが望ましい。

科目区分等	授業科目名	単位数	必要修得単位数	備考
国際教育関連科目	国際経済論 A	2	6~8	各専修プログラムのプログラム科目（基礎・展開）。振替ではなく、岩手大学で履修すること。 なお、本副専修で履修した分は主専修プログラムの単位に入れることはできない。
	国際経済論 B	2		
	国際政治学	2		
	国際開発と環境・貧困	2		
	エスニシティ論講義	2		
	異文化コミュニケーション論 A	2		
	異文化コミュニケーション論 B	2		
	異文化コミュニケーション論 C	2		
	異文化コミュニケーション論 D	2		
	日本語教育概論Ⅰ	2		
	日本語教育概論Ⅱ	2		
留学	交換留学（海外協定大学への留学）により履修した授業科目	-	8~10	修得単位を主専修プログラム科目の単位に申請・登録した場合は本区分には算入できない。 留学前に担当教員と留学先での履修科目について相談しておくこと。
合計			16	

ただし、協定校で履修した科目として認定できる単位数は、原則として下記の範囲内とする。

実技・実習科目(体育・音楽等) 4単位まで  
外国語としての日本語科目 4単位まで

## 課外科目

注 課外科目は、単位修得しても卒業に必要な単位に算入できません。

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講間隔	備考
課外科目	模擬裁判実践演習	1	2前	1回/1年	集中
	教職入門	2	1前	1回/1年	(注)
	教育概論	2	2前	1回/1年	
	教育・学校心理学	2	1後	1回/1年	
	教育法規	2	2前	1回/1年	
	学校経営・制度論	2	2後	1回/1年	
	特別支援教育	2	2前	1回/1年	
	教育課程・教育方法論	2	2前	1回/1年	
	道德教育の理論と実践	2	2後	1回/1年	
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2後	1回/1年	
	特別活動の理論と方法	2	2後	1回/1年	
	教育におけるICT活用法	1	3年	1回/1年	
	生徒指導・進路指導	2	1後	1回/1年	
	教育相談	2	2前	1回/1年	
	中学校教育実習	4	4通	1回/1年	集中
	高等学校教育実習	2	4通	1回/1年	集中
	教育実習事前事後指導	1	3~4	1回/1年	集中
	教職実践演習	2	4後	1回/1年	
	国語科教育法	2	2前	1回/1年	
	国語科教育法	2	2後	1回/1年	
	国語科教育法	2	3前	1回/1年	
	国語科教育法	2	4後	1回/1年	
	社会科教材研究法	2	2前	1回/1年	
	社会科学習内容構築論	2	4後	1回/1年	
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2	2後	1回/1年	
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2	2前	1回/1年	
	地理歴史科教育法	2	2前	1回/1年	
	公民科教育法	2	2後	1回/1年	
	英語科教育法	2	2前	1回/1年	
	英語科教育法	2	2・3後	1回/2年	
	英語科教育法	2	2・3後	1回/2年	
	英語科教育法	2	4後	1回/1年	
	人文地理学概論A	2	1後	1回/1年	
	自然地理学概論A	2	2前	1回/1年	
	地誌学	2	2前	1回/1年	
	生涯学習概論	2	1前	1回/1年	集中
博物館概論	2	1後	1回/1年		
博物館経営論	2	3後	1回/1年		
博物館資料論	2	3前	1回/1年		
博物館資料保存論	2	2前	1回/1年		
博物館展示論	2	2前	1回/1年		
博物館教育論	2	2前	1回/1年		
博物館情報・メディア論	2	2後	1回/1年		
博物館実習	3	4前	1回/1年		
日本語	日本語教育実習事前指導	1	2後	1回/1年	集中
	日本語教育実習	1	2後	1回/1年	集中
公認心理師	公認心理師の職責	1	1後	1回/1年	集中
	健康・医療心理学	1	2前	1回/1年	
	福祉心理学	1	2後	1回/1年	
	精神疾患とその治療	2	2後	1回/1年	
	関係行政論	1	3前	1回/1年	
	発達心理学	1	2前	1回/1年	
	心理実習	2	4通	1回/1年	
	教育・学校心理学	2	1後	1回/1年	(注)

\*備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

(注)科目区分中、公認心理師の欄に掲載の「教育・学校心理学」は、教職関係科目として掲載の「教育・学校心理学」とは別の科目です。免許および資格の取得にあたっては、それぞれに対応した科目の履修が必要となるので、注意してください。

## 9 . 取得可能な資格等について

本学部で取得可能な資格等は以下のとおりです。

一部の資格では、課外科目（卒業に必要な単位に算入できない授業科目）の単位修得が必要なものもあります。また、授業科目の履修する順番が決まっている場合もありますので、本手引きをよく読んで、資格取得を目指してください。

- ・教育職員免許状（教員免許）
- ・学芸員資格
- ・日本語教員
- ・社会調査士
- ・認定心理士
- ・公認心理師（受験資格の一部）
- ・環境再生医 初級
- ・自然再生士補

公認心理師については、大学で所定の単位を修得し、その後、大学院で所定の単位を修得するルート等で、受験資格が得られます。

### 教育職員免許状

本学部で取得できる教員免許は、以下のとおりです。所属課程により、取得できる教員免許の種類が異なるので注意してください。

#### 人間文化課程

中学校：国語，社会，英語

高等学校：国語，地理歴史，公民，英語

#### 地域政策課程

高等学校：公民

教員免許取得のために必要な授業科目や修得単位数，また，履修条件等の詳細は，本手引きの「教育職員免許状・各種資格の取得について」で確認してください。

### 学芸員資格

学芸員の職務や資格取得方法等の概略は，文化庁ホームページで確認してください。

文化庁HP [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan\\_hakubutsukan/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html)

本学部で開講する学芸員資格取得のための科目は以下のとおりです。履修対象学年や開講学期等は課外科目の科目等一覧で確認してください。

- ・生涯学習概論
- ・博物館概論
- ・博物館経営論
- ・博物館資料論
- ・博物館資料保存論
- ・博物館展示論
- ・博物館教育論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館実習

なお、「博物館実習」を履修するには、「博物館実習」以外の学芸員資格取得のための授業科目全ての単位（16単位）を修得していなければなりません。

### 日本語教員養成

日本語教員の職務等の概略は文部科学省ホームページ及び文化庁ホームページで確認してください。

文部科学省 <https://www.mext.go.jp/> 文化庁HP <https://www.bunka.go.jp/>

本学部では、日本語教員養成に関して文化庁が示した標準的な教育内容に基づき、日本語教員養成のための科目を以下のとおり開講します。下記の所定の科目を履修し単位を修得した者に対しては、「日本語教育科目単位修得証明書」を交付します。

科目区分	科目名	単位数	修得すべき単位数
教養教育科目	外国語科目	1	2
人社専門 学部共通科目	基礎ゼミナール	1	1
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅰ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅱ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅰ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅱ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	学校教育を受けるための日本語	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語学概説	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論A	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論B	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論C	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論D	2	
人社専門 人間文化課程・課程科目	国際交流研修	2	2
人社専門 課外科目	日本語教育実習事前指導	1	1
人社専門 課外科目	日本語教育実習	1	1
教養教育科目	言語学	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションA	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションB	2	
人社専門 課外科目（教職）	教育・学校心理学	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	言語習得論A	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	言語習得論B	2	
合計			27

外国語科目は2単位まで充当できる。

「言語学」は指定クラスを受講すること。（掲示でお知らせします。）

### 社会調査士

社会調査士資格の概要は、一般社団法人社会調査協会HPで確認してください。

一般社団法人社会調査協会HP <https://jasr.or.jp/>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムおよび地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 認定心理士

認定心理士資格の概要は、公益社団法人日本心理学会HPで確認してください。

公益社団法人日本心理学会HP <https://www.psych.or.jp/>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 公認心理師

公認心理師資格の概要は、厚生労働省HPで確認してください。

厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 環境再生医 初級

環境再生医資格の概要は、認定NPO法人自然環境復元協会HPで確認してください。

認定NPO法人自然環境復元協会HP <https://www.narec.or.jp/>

本資格の取得は、地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 自然再生士補

自然再生士補資格の概要は、一般財団法人日本緑化センターHPで確認してください。

一般財団法人日本緑化センターHP <http://www.jpgreen.or.jp/>

本資格の取得は、地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

# 教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

# 教育職員免許状・各種資格の取得方法

## 1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが2.5単位～3.7単位）及び教養教育科目として開講している「**憲法**」2単位、「**健康・スポーツ科目**」から2単位、「**英語コミュニケーション**」**・**、**中級ドイツ語**、**中級フランス語**、**中級ロシア語**、**中級中国語**、**中級韓国語**」から2単位、「**情報基礎A**」2単位を修得する必要があるため、相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生は - 8ページ以降のとおりです。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

### ・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を7日間行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

### ・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域	
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語、社会、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、英語	
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民	
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状		
		中学校教諭1種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報、音楽、美術、保健体育、英語	
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域	
理工学部	理工 学科	化学コース	高等学校教諭1種免許状	数学、理科、情報、工業
		数理・物理コース		
		材料科学コース		
		知能情報コース		
		クリエイティブ 情報コース		
		電気電子・情報通信 コース		
		機械知能航空 コース		
		社会基盤・環境工学 コース		
農学部	食料農学科	高等学校教諭1種免許状	理科、農業	
	生命科学科		理科	
	地域環境科学科		理科、農業	
	動物科学・水産科学科			

## 人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには、以下の条件を満たしていなければなりません。

教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。

表1の単位を修得していること。

教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

・憲法 2単位

・健康・スポーツ 2単位

・英語コミュニケーション 2単位

中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語でも可

・情報基礎A 2単位

中学校教員免許を取得する場合は、「介護等の体験（特別支援学校2日間，社会福祉施設等5日間の実習）」を実施していること。

詳細については1年前期に開講する「教職入門」で説明するので，教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお，各課程で取得できる教員免許は，前ページの「1 教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表1 教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する科目	独自科目	各教科の指導法	教科に関する科目	計
中学校1種	30単位	3単位	8単位	20単位	61単位
高等学校1種	26単位	11単位	4単位	20単位	61単位

### 教育実習について

「教育実習事前事後指導（1単位）」の内容

1．教育実習ガイダンス（3年次4月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

2．事前指導（3年次）

事前指導（7月）

教員養成支援センター教員による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導（7月）

教育学部附属中学校教諭による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導（8月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導（12月下旬）

教育実習報告会の聴講

3．事前指導（4年次4月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

#### 4. 事後指導（4年次後期）

事後指導（教育実習終了後2週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導（12月下旬）

教育実習報告会に参加し、他の学生の教育実習実施報告を聴講し、教育実習を振り返る

#### 教育実習実施の要件

3年次末までに、以下に掲げる要件を満たしていること。

事前指導をすべて受講している

「教育実習ガイダンス」に参加している

卒業に必要な単位（課外科目を除く）を96単位以上修得している

教職に関する科目のうち3年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している

「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している

教育実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得している

教科に関する科目を10単位以上修得していること

#### 教育実習の実施について

教育実習を行う学校は、原則、各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は、学生センター 番窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は、中学校で4週間（約160時間）、高等学校教員免許取得の場合は、高等学校で2週間（約80時間）、実習を行わなければなりません。実習は、5月中旬～6月下旬に行われることが多いですが、実習校により異なりますので、申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は、3年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので、期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター 番窓口提出してください。7月中旬頃に、実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは、事前に実習予定校に連絡し、訪問日時を予約した後、長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で、実習予定校に依頼してください。近年、教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており、実習を断られる場合もあります。2年次から実習予定校のHPの確認や実習予定校への連絡を行い、教育実習実施の意思を伝えると共に、教育実習の申込時期を問い合わせるなど、早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は、2週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で、「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので、忘れずに提出してください。

#### 教育職員免許取得に係る注意事項

##### 教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に、その学修状況を確認するため、教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職eポートフォリオに入力してもらいますので、日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。入力時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

4年次後期に履修する「教職実践演習」では、教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので、十分注意してください。

#### 「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには、「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりません。

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので、中学校教員免許取得を希望する場合は、2年次11月中～下旬に行われるガイダンスと3年次4月に行われる事前指導に必ず出席してください。2年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので、期日までに学生センター 番窓口へ提出してください。3年次の事前指導は2回行いますが、全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は、3年次の6～12月に行われ、期間は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の計7日間です。実習先や実習日は、申込書に基づき、岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

#### 教員免許状の授与申請

教員免許は、岩手県教育委員会に申請し、授与されますが、本学では、卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は、期日までに必要書類を学生センター 番窓口へ提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（12月中旬頃）。

#### 教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は、一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

「教職入門」履修後でなければ、他の教職に関する科目を履修できない

国語科教育法は、、、の順に履修しなければならない

中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって、社会科教材研究法は、少なくとも中等社会科教育法A（社会・地理）あるいは中等社会科教育法B（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。

高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法A（社会・地歴）、地理歴史科教育法の順に履修しなければならない。

高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法B（社会・公民）、公民科教育法の順に履修しなければならない。

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので、シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

#### 教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は、免許状の種類および教科により、表2のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）1単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は、教科に関する科目、各教科の指導法、および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表2 免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）	
中学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		国文学（国文学史を含む。）	
		漢文学	
		書道（書写を中心とする。）	
	社会	日本史・外国史	
		地理学（地誌を含む。）	
		「法律学、政治学」	
		「社会学、経済学」	
	英語	英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	
	高等学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
			国文学（国文学史を含む。）
			漢文学
		地理歴史	日本史
外国史			
人文地理学・自然地理学			
地誌			
公民		「法律学（国際法を含む。） 政治学（国際政治を含む。）」	
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
英語		英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	

「 」は、鍵括弧内の科目（区分）から、1つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば、中学校社会の「法律学、政治学」では、法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目(中学校30単位、高校26単位)

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
				中学 必選	高校 必選	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 「(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む。	教職入門	1前	2	2	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を含む。 「(チーム学校運営への対応を含む。)」を含む。	教育概論	2前	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育法規	2前	2	2	教育法規、学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後	2	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2		中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2	2	
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2後	2	2	
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1	1	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2前	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習 中5単位、高3単位 事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3~4	1	1	
		中学校教育実習	4通	4		
		高等学校教育実習	4通		2	
	教職実践演習	教職実践演習	4後	2	2	

各教科の指導法に関する科目(中学校8単位、高校4単位)

各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
			中学 必選	高校 必選	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法	2前	2	2	から の順に履修 高校: を履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法	2後	2	2	
	国語科教育法	3前	2	2	
	国語科教育法	4後	2	2	
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2後	2	2	高校地歴: 中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2前	2	2	
	社会科教材研究法	2前	2	2	高校公民: 中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	社会科学習内容構築論	4後	2	2	
	地理歴史科教育法	2前	2	2	
	公民科教育法	2後	2	2	
	英語科教育法	2前	2	2	高校: を履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法	2・3後	2	2	
	英語科教育法	2・3後	2	2	
	英語科教育法	4後	2	2	

教科に関する科目 科目区分別授業科目一覧

人間文化課程

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考		
国	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	必 日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても、「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している(以下同様)。		
		日本語学講義 A	2	中学 高校			
		日本語学講義 B	2	中学 高校			
		日本語学講義 C	2	中学 高校			
		日本語学講義 D	2	中学 高校			
		日本語学講読 A	2	中学 高校			
		日本語学講読 B	2	中学 高校			
		日本語学特講 A	2	中学 高校			
		日本語学特講 B	2	中学 高校			
		日本語表現基礎(アカデミック・ライティング)	2	中学 高校			
		日本語読解基礎(クリティカル・リーディング)	2	中学 高校			
		中国語学講義 B	2	中学 高校			
		語	国文学(国文学史を含む。)	必 日本文学講義 A		2	中学 高校
必 日本文学講義 B	2			中学 高校			
必 日本文学講義 C	2			中学 高校			
必 日本文学講義 D	2			中学 高校			
日本文学特講 A	2			中学 高校			
日本文学特講 B	2			中学 高校			
漢文学	必 漢文学概論			2	中学 高校		
	漢文学講義	2	中学 高校				
書道(書写を中心とする。)	必 書法基礎	2	中学				
社 会	日本史	必 日本史講義 A	2	中学 高校	中学校免許では、日本史+外国史の授業科目=日本史・外国史の授業科目、人文地理学・自然地理学+地誌の授業科目=地理学(地誌を含む。)の授業科目。必修、選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している(以下同様)。 選必 アジア史講義 A, 同 B から 2 単位修得すること。		
		必 日本史講義 B	2	中学 高校			
		日本史講義 C	2	中学 高校			
		日本史講義 D	2	中学 高校			
		日本史特講 A	2	中学 高校			
		日本史特講 B	2	中学 高校			
		日本史特講 C	2	中学 高校			
		日本史講読 A	2	中学 高校			
		日本史講読 B	2	中学 高校			
		考古学講義 A	2	中学 高校			
		考古学講義 B	2	中学 高校			
		地 理 史	外国史	必 西洋史講義 A		2	中学 高校
				必 西洋史講義 B		2	中学 高校
西洋史講義 C	2			中学 高校			
選必 アジア史講義 A	2			中学 高校			
選必 アジア史講義 B	2			中学 高校			
西洋史特講 A	2			中学 高校			
西洋史特講 B	2			中学 高校			
西洋史講読 A	2			中学 高校			
西洋史講読 B	2			中学 高校			
西洋史講読 C	2			中学 高校			
西洋史講読 D	2			中学 高校			
アジア史特講 A	2			中学 高校			
アジア史特講 B	2			中学 高校			
アジア史特講 C	2	中学 高校					
人文地理学・自然地理学	必 人文地理学概論 A	2	中学 高校	課外科目			
	必 自然地理学概論 A	2	中学 高校				
地誌	必 地誌学	2	中学 高校	課外科目			

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。 本科目（区分）の授業科目は、全て地域政策課程の授業科目（一部専修プログラムでは専修プログラム科目になっている授業科目もある）。
		民法（総則）	2	中学 高校	
		民法（総則）	2	中学 高校	
		民法（物権）	2	中学 高校	
		民法（物権）	2	中学 高校	
		民法（家族法）A	2	中学 高校	
		民法（家族法）B	2	中学 高校	
		憲法（人権）	2	中学 高校	
会	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 社会学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		社会学入門B	2	中学 高校	
		社会学入門C	2	中学 高校	
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講	2	中学 高校	
		ジェンダー論講義	2	中学 高校	
		エスニシティ論講義	2	中学 高校	
公 民	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで、中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義Bから2単位修得すること。 高校公民「選必」人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。
		人文学入門B	2	中学 高校	
		人文学入門C	2	中学 高校	
		人間学講義	2	中学 高校	
		倫理学講義	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		倫理学特講A	2	中学 高校	
		倫理学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読	2	中学 高校	
		日本思想史講読	2	中学 高校	
		社会文化思想論講義	2	中学 高校	
		選必 心理学概論	2	高校	
		実験心理学（神経・生理心理学）	2	高校	
		認知心理学（知覚・認知心理学）	2	高校	
		社会心理学（社会・集団・家族心理学）	2	高校	
臨床心理学（臨床心理学概論）	2	高校			
認知心理学特講（知覚・認知心理学）	2	高校			
人格心理学特講	2	高校			

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考	
英語	英語学	必 英語学講義 D	2	中学 高校		
		言語習得論 A	2	中学 高校		
		言語習得論 B	2	中学 高校		
		英語学講義 A	2	中学 高校		
		英語学講義 B	2	中学 高校		
		英語学講義 C	2	中学 高校		
	英語文学	必 英米文学講義 D	2	中学 高校		
		英米文学講義 A	2	中学 高校		
		英米文学講義 B	2	中学 高校		
		英米文学講義 C	2	中学 高校		
	英語コミュニケーション	選必 英語コミュニケーション基礎	2	中学 高校		選必 英語コミュニケーション基礎 ，スキルアップ・イン グリッシュBから2単位修 得すること。
		選必 スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校		
		英語コミュニケーション基礎	2	中学 高校		
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校		
	異文化理解	必 英米文化論講義 E	2	中学 高校		
		英米文化論講義 A	2	中学 高校		
		英米文化論講義 B	2	中学 高校		
		英米文化論講義 C	2	中学 高校		
英米文化論講義 D		2	中学 高校			
英米文化論講義 F		2	中学 高校			

地域政策課程

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考	
公	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際法を含む。)」	必 政治学(政治過程)	2	高校		
		民法(総則)	2	高校		
		民法(総則)	2	高校		
		民法(物権)	2	高校		
		民法(物権)	2	高校		
		民法(家族法)A	2	高校		
		民法(家族法)B	2	高校		
		憲法(人権)	2	高校		
	憲法(人権)	2	高校			
	民	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	必 経済学基礎	2	高校	
			環境社会学	2	高校	
			環境社会学	2	高校	
			経済学基礎	2	高校	
			農業経済論	2	高校	
農業経済論			2	高校		
理論経済学			2	高校		
理論経済学			2	高校		
財政学			2	高校		
財政学			2	高校		
環境経済論A	2	高校				
環境経済論特講	2	高校				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	高校	選必：人文学入門A，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から2単位修得すること。本科目(区分)の授業科目は，全て人間文化課程の授業科目。		
	選必 日本思想史講義A	2	高校			
	選必 日本思想史講義B	2	高校			
	選必 心理学概論	2	高校			

## 2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－４８～５０ページ
教育学部	Ⅳ－４３～６６ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

# 国際教育科目について

## 国際教育科目について

### 1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

#### 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

#### < 共修科目群リスト >

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A - Ikebana A	2	1	前期	英語
	Japanese Traditional Culture B- Ikebana B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修 世界から地域を考える」履修者対象
	学内留学	2	2、3、4	後期	
	国際合宿	2	2、3、4	前期	集中

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

### 交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また、科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが、正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」\*として登録した科目については単位が認められます。

### < 交換留学生専用科目群 >

#### 日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語 会話	1	前期・後期	
初級日本語 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

## 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割、単位数、履修手続き、試験、成績評価等については、「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

## 2. 履修方法および開設授業科目

履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

# その他プログラムについて

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第 4 期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し、社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・AIに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため、教養教育と各学部の専門教育では、数理・データサイエンス・AIに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・AIに係る知識やスキルは、理系学部生の必須能力に留まらず、人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しいAIは、今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから、本学では、在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し、実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では、令和 4 年度に文部科学省から、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは、教養教育科目の必修科目で対応しているため、全学生が認定されます。また、MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは、教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており、学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和 6 年度には教育学部の教育プログラムが認定され、令和 5 年度入学生から適用されています。人文社会科学部、理工学部、農学部、獣医学部（令和 6 年度入学生までは農学部共同獣医学科）については令和 6 年度入学生から同教育プログラムを開始しており、令和 7 年度に認定されました。

なお、令和 7 年度から入学する理工学部、農学部の学生については、「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり、データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために、認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部、教育学部、獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目、修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

応用基礎レベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html>

## IHATOVO グローバルコースについて

### 1. IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化する課題をグローバルな視点から理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

### 2. コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度のGlobal Mileage を獲得した者にはIHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

### 3. コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別にGlobal Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

\* 一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。

\* マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件(成績、単位数、面接評価等)に加えることもあります。

#### < 認定方法 >

1) A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること

2) マイルの合計が一定のマイル数に到達していること

ブロンズ = 800 マイル   シルバー = 1200 マイル   ゴールド = 2000 マイル

### <認定基準>

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	800マイル
シルバー	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	1200マイル
ゴールド	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	2000マイル

#### 4. 履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、国際教育センターホームページ、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等で確認してください。

対象学年以上の正規学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html>



# イーハトーヴ協創コースについて

## 1. イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では、全学部の学生を対象とした共修プログラム（ ）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being)を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、岩手で生きる、岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通じ、心の豊かさとイノベーションマインドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。

（ ）共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

### （1）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは、教養教育科目を中心に、デザイン思考、マーケティング、プロジェクトマネジメント、課題解決型インターンシップなど、アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成や、地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高めるための科目、企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで、専門性と実践力を身につけます。

これらの学修過程を可視化するため、「地域協創マイレージ」を導入し、正課教育に加え正課外活動を含めてポイント化し、履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます）。

### （2）コースの受講対象者、登録・認定方法

- ・ 本学の各学部 に在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できます。
- ・ コースは自動エントリー制であり、履修をするための特段の手続きは不要です。
- ・ コースに関連する科目の単位を取得した場合や、課外活動を実施し所定の手続きを行った場合、「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。

## 2. コースの構成

### （1）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお、授業科目には、必修科目とコア（選択必修）科目、選択科目の3種類があり、段階ごとに修得すべき単位数が定められていますので、注意してください。

なお、正課教育で取得した単位は1単位 = 50 地域協創マイレージに換算します。

## コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目 （選択必修）	1単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	2単位	社会連携学 A・B、 キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目、地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

## 開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

## （２）正課外活動

- 地域課題解決プログラム、学内カンパニー、NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや、イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加、他大学や他機関との連携プログラム等について、以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

### < 地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安） >

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 1単位科目	50
	イーハトーヴ協創コース関連科目 2単位科目	100
正課外活動	単発型のイベント	10
	3日程度の短期イベント	50
	3日以上～1週間程度の中長期イベント	100
	インターンシップ、通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	150
	長期研修・長期インターンシップ、通年の実践活動（リーダーとして参画）	300

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

### 3. コースの評価・認定方法

- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・ 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了）」と記載されます。
- ・ また、本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- ・ 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- ・ 認定証と併せ、就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

#### (1) 認定方法

- ・ イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を5つのカテゴリーに分類し、それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

マインドセット
ツール
キャリア
アクション
専門知識

- ・ 各カテゴリーから、該当する授業、活動を最低1つずつ取得していることが認定要件となります。
- ・ マイレージの認定について、授業は自動認定されますが、正課外活動については、認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- ・ 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので、随時活用してください。

#### (2) 認定基準

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得 マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修2、コア2 （200マイル）	専門2 （100マイル）	100マイル	400マイル
シルバー	必修2、コア4 （300マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	300マイル	800マイル
ゴールド	必修2、コア8 （500マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	500マイル	1200マイル

#### 4. 履修モデル

- ・ イーハトーフ協創コースを受講する学生に対し、カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに、コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- ・ 履修モデルはあくまでも参考提示であり、学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので、履修の参考としてください。

なお、専門科目については、原則、所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

#### 5. 履修方法および開設授業科目

イーハトーフ協創コースの履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび地域協創教育課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

#### 6. 本件担当

地域協創教育センター（学生センターB棟1階）

<https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html>



# 関係法規等

## 岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する申し合わせ
8. 岩手大学転学部に関する規則
9. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
10. 岩手大学編入学取扱規則
11. 岩手大学編入学生の教養教育科目及び共通教育科目履修基準
12. 岩手大学再入学取扱規則
13. 岩手大学研究生規則
14. 岩手大学科目等履修生規則
15. 岩手大学外国人留学生規則
16. 成績評価基準について
17. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

## 関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律